

平成26年度 函館市学習状況調査実施報告書

～最後までやり切る指導を目指して～



函館市教育委員会
函館市学力向上プロジェクト推進委員会

刊 行 に 寄 せ て

近年、科学技術の進歩、高度情報化やグローバル化の進展等、国際社会における大きな変化は、我が国の社会の在り方を大きく変容させつつあります。

このような時代にあって、子どもたちがこれからの社会の形成者として、豊かに自己実現を図っていくためには、知・徳・体の調和のとれた教育を行うことが重要であります。特に、確かな学力については、基礎的・基本的な知識や技能はもちろんのこと、これに加えて、「学ぶ意欲」や「思考力・判断力・表現力等」を含めた学力を育てることが求められております。

本市におきましては、**CRT** 検査を小学校4年生および中学校1年生で毎年実施しており、その結果を見ますと、全国との差は確実に縮まってきています。

また、平成19年度から実施している全国学力・学習状況調査においては、下位の児童生徒の割合や、無回答率が減少しているなどの成果が見られます。

このような中、本報告書では、「函館市義務教育基本計画」の実現を目指し、学校教育推進の指針「アプローチ」において示している重点指導事項Ⅰ「粘り強さを育む組織的な学習指導の推進」に基づき、その具体的な取組方法等について、特集として掲載いたしました。

各学校におきましては、**CRT** 検査や全国学力・学習状況調査結果の分析・考察から、自校の課題を明確にするとともに、課題解決に向け、学校改善プランに取り入れたり、年度の重点事項として設定したりするなどして、積極的な取組を進めていると感じております。

今後も、本報告書を日常的に活用し、子どもたちの学力向上に向けた教育活動が積極的に展開されますよう期待しております。

終わりに、本報告書の刊行に当たって、校長会および教頭会をはじめ、市内各小・中学校並びに「函館市学力向上プロジェクト推進委員会」の皆様には、多大なご協力をいただいたことに対しまして、心からお礼申し上げます。

平成27年3月

函館市教育委員会教育長

山 本 真 也

目次

刊行に寄せて	
目次	
本報告書の構成	・・・ 1

特集

粘り強さを育む組織的な学習指導の推進	・・・ 2
1 学習規律の徹底	・・・ 3
2 問題解決的な学習の徹底	・・・ 7
3 主体的な学習習慣の確立	・・・ 10

実践編

I 学力向上に関する取組について	
1 平成26年度学校教育の重点	・・・ 16
2 学力向上関連事業	・・・ 17
II 学力向上を目指した学習指導案（実践例）	
・国語科	・・・ 18
・算数科	・・・ 22
・外国語活動	・・・ 29

資料編

函館市の学力の現状	
1 CRT検査および学習意識調査の結果から	
(1) 小学校国語科 (第4学年)	・・・ 33
(2) 小学校算数科 (第4学年)	・・・ 33
(3) 学習意識調査 (第4学年)	・・・ 34
(4) 中学校国語科 (第1学年)	・・・ 35
(5) 中学校数学科 (第1学年)	・・・ 35
(6) 中学校外国語科 (第1学年)	・・・ 35
(7) 学習意識調査 (第1学年)	・・・ 37
2 平成26年度全国学力・学習状況調査の結果から	
(1) 平成26年度全国学力・学習状況調査結果（概要）	・・・ 38
(2) 函館市における国語（A・B）の状況（小学校）	・・・ 40
(3) 函館市における算数（A・B）の状況（小学校）	・・・ 41
(4) 函館市における国語（A・B）の状況（中学校）	・・・ 42
(5) 函館市における数学（A・B）の状況（中学校）	・・・ 43
(6) 児童生徒質問紙の結果より	・・・ 44

原稿執筆・編集者一覧

本報告書の構成

本報告書では、今年度のアプローチの重点指導事項Ⅰ「粘り強さを育む組織的な学習指導の推進」を実現するための、具体的な方法について特集しています。



標準学力検査（CRT）より

- 小学校国語科の得点率は全国平均をやや上回り、算数科では全国平均との差が縮小しています。（本書P.33参照）
- 中学校数学科，外国語科の得点率において，全国平均をやや上回っています。（本書P.35参照）

など

平成26年度全国学力・学習状況調査より

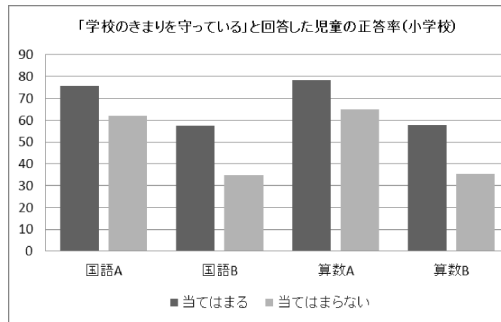
- 各教科の平均正答率は，全国の平均とほぼ同程度です。（本書P.38参照）
- 国語，算数・数学ともA問題の平均正答率は比較的高く，B問題の平均正答率は比較的低くなっています。
- 無回答率が減少しています。

など

特集

〈平成26年度全国学力・学習状況調査より〉

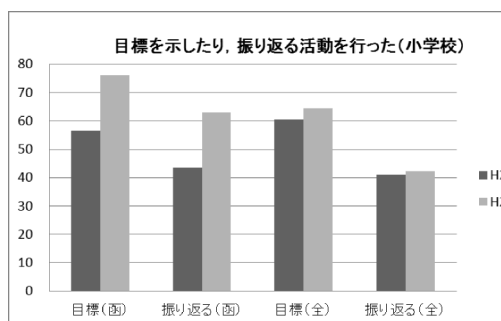
「学校のきまりを守っている」に、「当てはまる」と回答した児童は、「当てはまらない」と回答した児童より，10ポイント以上，正答率が高い傾向が見られます。学習規律の定着状況を教師も子どもも意図的に振り返ることが大切です。



学習規律の徹底

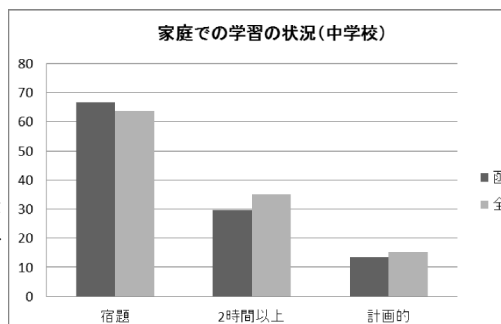
各学校では，問題解決的な学習の推進に努め，「目標を示す活動」や「振り返る活動」は，大変充実してきました。

一方で活用する力の一層の伸長が大きな課題であることから，課題解決のプロセスを大切にしたい授業を行うことが大切です。



問題解決的な学習の徹底

「宿題をしている」と回答した生徒の割合は高くなっていますが，中学校で「2時間以上家庭学習に取り組んでいる」，「計画を立てて勉強している」と回答した生徒の割合は，依然として全国より低い傾向が見られます。



主体的な学習習慣の確立

特集

「粘り強さを育む組織的な学習指導の推進」

(平成26年度 『アプローチ』 重点指導事項Ⅰ)

1 学習規律の徹底

達成目標： 学習規律の確実な定着

- 子どもの発達段階や実態に応じた学校としての学習規律を取り決め、教職員間で共通理解を図り、指導を徹底しましょう。
- 学習規律は、全教室に掲示するなど、子どもが常に意識できるよう工夫するとともに、教職員自らが範を示し、子どもたちに確実に身に付くように指導を徹底しましょう。

【取組例】

- (1) 学習規律の内容例
- (2) 発達の段階を考慮した指導のポイント例
- (3) 教職員の組織的な取組例
- (4) 教室環境の整備、学習規律にかかわる評価

→	P3
→	P4
→	P5
→	P6

2 問題解決的な学習の徹底

達成目標： 学習の流れの定着
思考したり判断したりする学習活動の定着

- 評価規準に基づいた学習の「めあて」を必ず提示し、「めあて」と対応した「まとめ」を行い、学習過程を明確にした指導を徹底しましょう。
- 基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付けさせるとともに、子どもが自ら考えたり、判断したりする学習活動を計画的に行い、思考力・判断力・表現力等の育成を図りましょう。
- 「まとめ」を生かした適用問題に必ず取り組ませ、定着を確かなものにするるとともに、特に、つまづいている部分は、個別指導や繰り返し指導を行うなど、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させましょう。

【取組例】

- (1) 思考したり判断したりする学習活動

→	P7~9
---	------

3 主体的な学習習慣の確立

達成目標： 主体的な家庭学習の定着
学習習慣の定着に向けた近隣小・中学校による連携

- 家庭学習の仕方や内容について、指導を徹底し、学習習慣の定着を図るとともに、主体的に取り組む態度を確実に育てましょう。
- 近隣の小・中学校において、学習規律や家庭学習の仕方を交流するなど、子どもに対して一貫性のある指導ができるよう工夫しましょう。

【取組例】

- (1) 子ども向け資料の例
- (2) 保護者向け資料の例
- (3) 小・中学校が連携した取組の例
- (4) 家庭学習シートの活用例

→	P10・11
→	P12
→	P13
→	P14

1 学習規律の徹底

(1) 学習規律の内容例

※ 学習規律を整理し、掲示している小学校の例です。

〇〇小学校高学年用

学習のやくそく「これだけは！」

～授業と休み時間のけじめをつけよう～

1 生活時間

- 学習の準備をしてから休み、チャイムが鳴る1分前には着席しよう。

2 あいさつ

- 気持ちよく授業が始められるよう、元気にあいさつをしよう。

3 発表

- まっすぐ手を挙げ、大きな声で積極的に発表しよう。

4 姿勢

- 正しい姿勢で、真剣に授業に参加しよう。

5 学習用具

- 大切に扱い、忘れ物をしないように心がけよう。

6 教室移動

- チャイムが鳴る前に移動をすませよう。

〇〇小学校高学年用

「学習規律（8項目）」

- | | |
|----------------------|--------------------------|
| 1 チャイムが鳴る1分前には席に着く。 | 2 学習の始めと終わりのあいさつをきちんとする。 |
| 3 正しい姿勢で座る。 | 4 話す人はみんなに聞こえる声で話す。 |
| 5 聞く人は話す人を見て最後まで聞く。 | 6 発表するときには、まっすぐ手を挙げる。 |
| 7 机の上に置く学習用具の配置を決める。 | 8 学習用具の整理整頓をする。 |

※ 学習規律を整理し、掲示している中学校の例です。

「学習のルール」

◎ 授業時間を大切にしよう。

- ・始業の2分前までに着席しよう。
- ・時間と同時に挨拶をしよう。（服装、指先、礼のふかさ等）
- ・正しい姿勢で授業を受けよう。
- ・次の授業の準備をしてから休憩に入ろう。

◎ 授業に積極的に取り組もう。

- ・今日の目標を意識して授業を受けよう。
- ・自分の考えを積極的に発表しよう。
- ・人の話をしっかり聞こう。（発表・発言・説明等）

「学習の約束」

- ① 授業に必要なもの（準備物・宿題）を忘れない。
- ② 机やロッカーを整頓し、よい姿勢で学習する。
- ③ 最後まで集中して授業を受ける。
- ④ 先生や友達の話をよく聞く。
- ⑤ 自分の意見を進んで発表するしたり、理由を付けてわかりやすく発表したりする。
- ⑥ ノートは丁寧な字で、正確に書く。
- ⑦ プリントの整理や宿題の確認を行う。

(2) 発達の段階を考慮した指導のポイント例

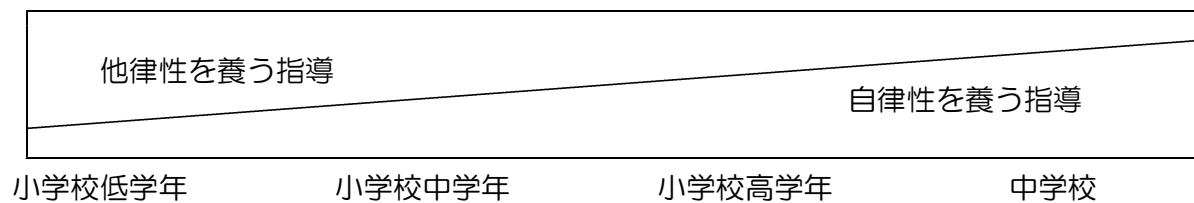
※ 義務教育9年間の発達の段階を考慮した指導のポイントを整理した例です。

〇〇小学校・〇〇中学校 小・中学校連携研修会 参考資料

他律性から自律性を養う指導へと移行していくことが必要です。

- ★ 他律性を養う指導→教え伸ばす指導を重視
- ★ 自律性を養う指導→自己指導能力の育成を重視

指導のイメージ



ポイント1: 小学校低学年～小学校中学年

- 他律性を養う指導が必要です。
- (例) 行動の内容や意義を教える。
- できたら誉め、できなければ繰り返し指導する。
- 何度も取り組ませる。
- 自ら行動できるように育てる。

ポイント2: 小学校高学年～中学校

- 自律性を養う指導が必要です。
- (例) 責任感や批判力が育ってくることを踏まえる。
- 自己決定や集団での協議による決定の場面を設定する。
- 自己指導能力や主体性を育む取組を行う。

(3) 教職員の組織的な取組例

※ 教師の行動目標を設定している例です。

授業実践 8つの約束

- 1 指導の計画を立て、見通しをもって授業を行う。
- 2 チャイムが鳴る前に着席させ、授業時間の管理をしっかり行う。
- 3 言葉遣いに気を付ける。
- 4 授業の始まりと終わりの挨拶をきちんとさせる。
- 5 学習のめあてをわかりやすく提示する。
- 6 何をどのようにすればよいか、わかりやすく説明してから活動させる。(教材の準備等も含む) 指示は短く明確に!
- 7 本時の振り返りの時間を保障する。
- 8 学習のまとめをさせ、学習したことを確かめさせる。

※ 共通理解を図るために、教師用の手引を作成している例です。

授業を大切にするための「指導の手引」

【指導におけるキャッチフレーズ】

- ◎ 基礎的・基本的な学習内容が身に付くような授業を
- ◎ わかる授業・楽しい授業を
- ◎ 「考える・話し合う・発表する」時間を確保した授業を
- ◎ 家庭学習の習慣化との関連を意識した授業を

【指導における8つのポイント】

【教師自身は…】

- ① 授業の始めと終わりの時間を守りましょう。
- ② 子どもたちの話をしっかり聞きましょう。
- ③ 受容と共感を大切に、子どもの声をしっかりと受け止めましょう。

【子どもへは…】

- ① 授業の始めと終わりの挨拶をさせましょう。
- ② 名前を呼んだら、「はい」と返事をさせましょう。
- ③ 話の終わりに「～です」「～ます」を付けさせましょう。
- ④ 友達や教師の話をしっかり聞かせましょう。
- ⑤ 自分の考えをみんなに聞こえる声で発表させましょう。

(4) 教室環境の整備, 学習規律にかかわる評価例

※ 学級掲示を通して, 学習規律を徹底している例です。

みんなでまもろう! 「学しゅうのきほん」

正しいしせい

話している人の目を
しっかり見る

げんこつひとつづぶん



合いことばは, “ぐう・べた・びん”

※小学校低学年 (例)

みんなで守ろう!

チーム〇〇小・学習の約束

- 1 正しいすわり方 (ぐう・べた・びん)
- 2 学習用具の準備 (休み時間のうちに)
- 3 ふで箱の中身 (学習に必要な物)
 - ・鉛筆5本, 赤鉛筆, ものさし, 消しゴム
- 4 返事・声の大きさ
 - ・指名されたら「はい」と返事をする。
 - ・みんなに聞こえる声の大きさを話す。
- 5 話し方・聞き方
 - ・話す人は, 聞く人全体を向いて話す。
 - ・聞く人は, 話す人の方に顔や体を向ける。

全校や学年で定着度を確認し合いながら, 指導しましょう。

※ 子ども向けのアンケートを実施するなど, 実態把握を行っている例です。

学習の約束

12月1日~5日	月	火	水	木	金
<input type="checkbox"/> 始業の1分前までに着席する。					
<input type="checkbox"/> 学習道具の準備をする。					

わたしたちの「学習ルール」をふりかえろう!

年 組 ()



ふりかえりのしかた ばっちり…◎ まあまあ…○ がんばろう…△	一学期	二学期	三学期
1 あいさつ・返事・言葉づかいをしっかりとしよう。			
2 正しい姿勢で学習しよう。			
3 授業の準備をしっかりとしよう。			
4 すばやく行動するようにしよう。			
5 黒板はいつでもきれいにしよう。			
6 自分の考えをしっかりととよう。			
7 話している人を見て, 最後まで聞こう。			
8 失敗やまちがいから学ぼう。			
9 学用品は学習に集中できるものにしよう。			
10 わたしたちのクラスのルール 〔 〕			

毎日の状況の振り返りを行う。

学期ごとなど, 定期的な状況の振り返りを行う。

2 問題解決的な学習の徹底

(1) 思考したり判断したりする学習活動

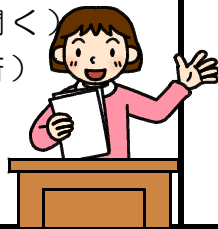
授業づくりの基本

- 評価規準に基づいた学習の「めあて」を必ず提示し、「めあて」と対応した「まとめ」を行い、学習過程を明確にした指導を徹底しましょう。
- 基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付けさせるとともに、子どもが自ら考えたり、判断したりする学習活動を計画的に行い、思考力・判断力・表現力等の育成を図りましょう。
- 「まとめ」を生かした適用問題に必ず取り組ませ、定着を確かなものにするとともに、特につまずいている部分は、個別指導や繰り返し指導を行うなど、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させましょう。

(平成26年度 アプローチから)

国語科の授業展開例 め あて → よ そう → た しかめ → ま とめ

		教師の働きかけ	チェックポイント
導 入	め	<ul style="list-style-type: none"> ◆ <u>既習事項を確認し、本時の学習課題を示す。</u> ◆ <u>本時の「めあて」を提示する。</u> <ul style="list-style-type: none"> ○ めあてをわかりやすく提示し、めあてを確実に理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 前の学年や単元でどのような読み方、話し方、聞き方、書き方を学んだのかを確認します。 □ 本時における「めあて」が何かを全体で確認します。
		<ul style="list-style-type: none"> ◆ <u>「めあて」を解決するために、次の学習活動などを適切に位置付ける。</u> <ul style="list-style-type: none"> ○ 見通しをもたせる。 ○ みんなで考えさせる。 (読む、書く、話す・聞く) (ペア、グループ、一斉) ○ 全体で交流させる。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 考えたことやその理由など、自分の考えをもたせるようにします。 □ 共通点や相違点など、考えたり、交流したりする時の視点を明確にします。
終 末	ま	<ul style="list-style-type: none"> ◆ <u>「めあて」に対する「まとめ」をする。</u> <ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもの考えを生かしてまとめをする。 ◆ <u>学習内容の定着を図る。</u> <ul style="list-style-type: none"> ○ 振り返りをさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 「めあて」と対応した「まとめ」を行います。 □ 学習内容の定着状況を把握する方法（自己評価、小テスト、ノート等）を工夫します。

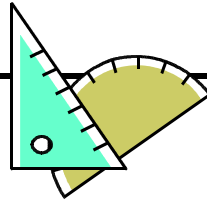


授業づくりの基本

- 評価規準に基づいた学習の「めあて」を必ず提示し、「めあて」と対応した「まとめ」を行い、学習過程を明確にした指導を徹底しましょう。
- 基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付けさせるとともに、子どもが自ら考えたり、判断したりする学習活動を計画的に行い、思考力・判断力・表現力等の育成を図りましょう。
- 「まとめ」を生かした適用問題に必ず取り組ませ、定着を確かなものにするとともに、特につまずいている部分は、個別指導や繰り返し指導を行うなど、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させましょう。

（平成26年度 アプローチから）

算数・数学科の授業展開例 (め)あて→(よ)そう→(た)しかめ→(ま)とめ

		教師の働きかけ	チェックポイント
導		<ul style="list-style-type: none"> ◆ <u>既習事項を確認し、本時の学習課題を示す。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> □ 前時との違いなどを確認します。
入	(め)	<ul style="list-style-type: none"> ◆ <u>本時の「めあて」を提示する。</u> ○ めあてをわかりやすく提示し、確実に理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 本時における「めあて」が何かを全体で確認します。
展	(よ)	<ul style="list-style-type: none"> ◆ <u>目標を実現するために、次の学習活動などを適切に位置付ける。</u> ○ 予想をたてさせる。 ○ 自分で考えさせる。 (個) ○ みんなで考えさせる。 (ペア、グループ、一斉) ○ 全体で交流をさせる。 	<div style="text-align: center;">  </div> <ul style="list-style-type: none"> □ 課題解決のための見通しをもつ場を設定します。 □ 解決に必要な教材・教具を選択する場を設定します。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 具体物、半具体物（ブロック、数え棒、おはじき、模型等）ノート、黒板、PC、実物投影機 等 </div> <ul style="list-style-type: none"> □ 意見交流の方法を確認し、円滑な交流が図られるようにします。 □ 「はやく・簡単・正確に」を合言葉に、様々な考え方を整理します。
開	(た)	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 具体物を操作する活動 ・ 体験的な活動 ・ 探究的活動 </div>	
終	(ま)	<ul style="list-style-type: none"> ◆ <u>「めあて」に対する「まとめ」をする。</u> ○ 数学的な表現を用いて、自分の言葉でまとめさせる。 ◆ <u>学習内容の定着を図る。</u> ○ 適用問題に取り組ませる。 ○ 振り返りをさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 「めあて」と対応した「まとめ」を行います。 □ 学習内容の定着状況を把握する方法（自己評価、小テスト、ノート等）を工夫します。
末			

授業づくりの基本

- 評価規準に基づいた学習の「めあて」を必ず提示し、「めあて」と対応した「まとめ」を行い、学習過程を明確にした指導を徹底しましょう。
- 基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付けさせるとともに、子どもが自ら考えたり、判断したりする学習活動を計画的に行い、思考力・判断力・表現力等の育成を図りましょう。
- 「まとめ」を生かした適用問題に必ず取り組ませ、定着を確かなものにするとともに、特につまずいている部分は、個別指導や繰り返し指導を行うなど、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させましょう。

（平成26年度 アプローチから）

外国語活動・外国語科の授業展開例 め あて → よ そう → た しかめ → ま とめ

	教師の働きかけ	チェックポイント
導 入 め	<ul style="list-style-type: none"> ◆ Warm up <ul style="list-style-type: none"> ○ 既習事項を用いながら前時を思い出し、本時の活動につなげる。 ◆ 本時の「めあて」を提示する。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 学習の課題をつかませる。 ○ めあてをわかりやすく提示し、確実に理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 前時までの学習を想起するようにします。 □ 子どもが本時の「めあて」を意識できるようわかりやすく提示します。
展 開 よ た	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 「めあて」を解決するために、次の学習活動などを適切に位置付ける。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 見通しをもたせる。 ○ 単元内のバランスに気を付けて、言語活動（聞くことおよび話すこと、読むことおよび書くこと）を取り入れる。 ※ 小学校外国語活動は、「外国語を聞いたり、話したりすること」が主な活動内容です。 ○ みんなで活動をさせる。（ペア、グループ、一斉） ○ 全体で交流させる。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 本時の課題となる表現を用いながら、コミュニケーション活動の充実を図ります。 □ チャンツ、ゲームなど、子どもが主体的に取り組む活動を工夫します。
終 末 ま	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 「めあて」に対する「まとめ」をする。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 学んだ表現などを確認する。 ◆ 学習内容の定着を図る。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 適用問題に取り組ませる。（中学校・高等学校） ○ 振り返りをさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 「めあて」と対応した「まとめ」を行います。 □ 学習内容の定着状況を把握する方法（自己評価、小テスト、ノート等）を工夫します。



3 主体的な学習習慣の確立

(1) 子ども向け資料の例

※ 家庭学習の内容や方法を提示している例です。

小学校低学年（例）

〈こくご〉

〔おんどく〕

- 大きなこえでよめるようにしましょう。
- 「、」や「。」に気をつけて、よめるようにしましょう。
- まいにち、つづけて、よむれんしゅうをしましょう。

〔かくこと〕

- 正しいしせいで、ていねいに、ゆっくりかきましょう。
- ひらがな、カタカナ、かん字を正しいかきじゆん・かたち・おくりがなでかけるように、れんしゅうをしましょう。

〈さんすう〉

- かずのよみかた・かきかたをれんしゅうしましょう。
- 正しく、けいさんできるようにしましょう。
- ・たしざん、ひきざんのれんしゅうをしましょう。
- ・九九をすらすらいえるようにれんしゅうをしましょう。（2年生）

〈そのほか〉

- たのしかったことやうれしかったことをえやにっきにかいてみましょう。
- なわとびやてつぼうなど、たいりょくづくりにチャレンジしましょう。
- けんぱんハーモニカのれんしゅうをしたり、どうしょくぶつのかんさつをしたりしましょう。

小学校中学年（例）

〈国語〉

〔音読〕

- 毎日音読する習慣を身に付けましょう。
- 文章を正確に読むことができるようにしましょう。
- 主人公の気持ちやしょうけいをそうそうしてみましょう。

〔書くこと〕

- 正しい書き順で、正確に文字が書けるようにしましょう。
- とめ、はね、はらいに気を付けて、ていねいにくり返し練習をしましょう。

〔言葉〕

- 国語辞典や漢字辞典を手元に置き、使い方になれるようにしましょう。

〈算数〉

- 教科書や問題集を使って、習ったことをくり返し練習しましょう。
- かけ算やわり算が、正しくはやくできるように練習しましょう。
- 三角定規や分度器、コンパスなどが正確に操作できるようにくり返し練習をしましょう。

〈そのほか〉

- 音楽のリコーダーで習った曲の練習をしましょう。
- なわとびや鉄ぼうなど、体力づくりにチャレンジしましょう。
- 自主学習にちょうせんしましょう。
- （例）国語…語句の意味調べ、短文づくり
算数…問題づくり、単位を書いて覚える。

など

小学校高学年（例）

※ 一部省略

〈国語〉

〔音読〕

- 毎日音読する習慣を身に付けましょう。
- 情景を思い浮かべながら感情を込めて読むなど、自分でめあてを決めて練習をしましょう。

〔書くこと〕

- 正しい書き順で、正確に文字が書けるようにしましょう。
- とめ、はね、はらいに気をつけて、ていねいにくり返し練習しましょう。

〔言葉〕

- 国語辞典や漢字辞典を手元に置き、積極的に使いましょう。

〈算数〉

- 教科書や問題集を使って、習ったことをくり返し練習をしましょう。
- 間違えた問題に印を付けて、できるまで挑戦しましょう。

〈理科〉

- 教科書の重要語句や、観察、実験の方法や結果を見直しましょう。
- 授業で学習したところの問題集に挑戦しましょう。

〈社会〉

- 教科書の太字をノートに書いてまとめましょう。
- 地図帳をそばに置いて、地名や位置を確認しましょう。

など

中学校（例）

※ 一部省略

〈国語〉

- 教科書を繰り返し音読して、内容をつかみましょう。
- 新出漢字や意味のわからない単語は辞書を使って調べましょう。

〈数学〉

- 教科書やノートを見直し、学習した内容を振り返りましょう。
- 教科書や問題集で間違った問題にわかるまで挑戦しましょう。

〈社会〉

- 教科書の太字をノートに書いてまとめましょう。
- 地図帳をそばに置いて、地名や位置を確認しましょう。
- 教科書に出てくる資料や絵、グラフから、全体的な特徴をつかみましょう。

〈理科〉

- 教科書の重要語句と観察、実験の方法や結果を見直しましょう。
- 授業で学習したところの問題集に挑戦しましょう。

〈英語〉

- 教科書の重要語句と観察、実験の方法や結果を見直しましょう。
- 授業で学習したところの問題集に挑戦しましょう。
- 教科書の本文をノートに書き写して、日本語訳を書いてみましょう。
- 授業で学習する新しい表現文を書いて覚えましょう。

など

(2) 保護者向け資料の例

※ 学校が保護者向けに配付した「家庭学習の手引（小学校高学年の保護者向け）」の例です。
(一部省略)

家庭学習の手引

家庭学習は、学習習慣の定着を図る大切な機会です。

本年度、本校では、「家庭学習の手引（児童用）」「家庭学習の手引（保護者用）」を作成し、子どもたちの学習習慣の定着を図っていきたくと考えております。

先日、家庭学習の内容や方法について、子どもたちと確認をしたところです。

子どもたちの学習習慣が定着するためには、ご家庭の協力も必要です。お家の方の励ましや手助けが子どもにとって大きな力となりますので、よろしくお願いいたします。

家庭学習のしかた

学習時間のめやすは、学年×10分以上です。

- 1 宿題をしましょう。
- 2 自主学習に計画的に取り組みましょう。(漢字、計算練習、予習、復習、音読、読書など)

※ 学習内容については、「家庭学習の手引（児童用）」を参照願います。

家庭の協力をお願いします

- 始める時刻など、約束を決めましょう。
- テレビやゲームなどは消すようにしましょう。
- 学習する場所（机など）を決め、その周りの整理整頓をしましょう。
- 分からないことは調べるようにしましょう。(辞典、教科書など)

コラム：言葉がけを工夫してみませんか

3Hを大切にしましょう ～ほめる・はげます・ひろげる～

ほめる

「きれいに書いてあるね。」
「集中して取り組んだね。」

はげます

「間違いもあったけれど、
やればできるね。」

ひろげる

「あなたなら、もっと〇〇な
こともできると思うよ。」

(3) 小・中学校が連携した取組の例

※ 小・中学校が協力して取り組んでいる例です。

① 方法、内容などの交流

○ ねらい

- ・近隣の小・中学校が連携し、家庭学習の方法や内容について情報交換をすることにより、義務教育9年間を見通した学習習慣の定着に努める。

○ 取組の概要

- ・各学校の担当者が集まり、各教科の内容や方法について共有したうえで、小・中学校で相談し、9年間を見通した学習の手引を作成する。

○ 取組の成果

〈子どもたちの声〉

- ・必ず取り組むことに集中して取り組むことができた。
- ・自分なりに工夫をして取り組むことができた。

など

〈先生方の声〉

- ・各学年において、身に付けさせたい学習習慣の方法や内容が明確になった。
- ・これまでの指導を振り返り、今後の指導についての見通しをもつことができた。など

② 家庭学習の機会の設定

○ ねらい

- ・近隣の小・中学校が連携し、共通の家庭学習週間を設定することにより、家庭学習の習慣化に努める。

○ 取組の概要

- ・中学校の定期試験前の2週間を家庭学習週間とする。
小学校…「家庭学習がんばり週間」
中学校…「家庭学習強化週間」
- ・記録用紙を用いて、家庭学習の時間を記録する。
- ・学校便りや学級通信を通して、本取組についての保護者の理解を得る。

○ 取組の成果

〈子どもたちの声〉

- ・自分の学校以外の友達も取り組んでいるので、自分も頑張りたいという気持ちになった。
- ・兄弟姉妹で勉強に取り組むことができた。

など

〈保護者の声〉

- ・時間を決めて、勉強に取り組むことができた。
- ・兄弟姉妹で教え合って勉強に取り組んだ。

など

〈先生方の声〉

- ・地域全体が学習に取り組む雰囲気築かれた。
- ・近隣校の取組を理解することができた。

など

(4) 家庭学習シートの活用例

※ 子どもが家庭学習の取組を記録することができるように学習シートを活用している例です。

1週間の学習日記



日付	曜日	教科	内容(予定)	時間	自己評価・メモ
月曜日					
			合計時間		
火曜日					
			合計時間		
水曜日					
			合計時間		
木曜日					
			合計時間		
金曜日					
			合計時間		
土曜日					
			合計時間		
日曜日					
			合計時間		

1週間の学習表 しゅうかん がくしゅうひょう がつ なまえ

もくひょう あてはまるところに
いろをぬろう

ようび	がくしゅうないよう	バッチリ!	まあまあ	もうすこし

1しゅうかんのはんせい

生活スケジュール表

年組番氏名()



目標

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
午後3時						7:00 16:00	7:00 16:00
午後4時						8:00 17:00	8:00 17:00
午後5時						9:00 18:00	9:00 18:00
午後6時						10:00 19:00	10:00 19:00
午後7時						11:00 20:00	11:00 20:00
午後8時						12:00 21:00	12:00 21:00
午後9時						13:00 22:00	13:00 22:00
午後10時						14:00 23:00	14:00 23:00
午後11時						15:00 24:00	15:00 24:00
午後12時							

★励ましの言葉★

1週間の学習時間

時間	分
----	---

※ PTA研修の機会などを利用し、家庭学習の定着を図っている例です。

～小学校高学年保護者用～

家庭学習のすすめ

♪エピソード♪

小学校5年生のきよしくんは算数が大好きでした。4年生の頃は、家庭で勉強をしなくても、テストはほぼ満点で、授業でもどンドン発表していました。でも、5年生「分数の計算」の勉強になって、なんだか様子が変わってきました。

お母さん：「きよし、この間のテストもどってきたみたいね。しんやくんのお母さんから聞いたわよ。」

きよし：「えっ…。(もともと鞆の奥からテストを引っ張り出す。)」

お母さん：「あらっ、どうしたのこの結果は！」「もっと一生懸命勉強しなきゃだめじゃないの。努力が足りないわね。」

きよし：「ぼくだって、一生懸命やっているのに…。」

①「子どものやる気を引き出すコツ」を読みましょう。

【子どものやる気を引き出すコツ】

1 **認めてほめましょう。**

子どもの頑張りを「認め」、できたことを「ほめる」ことで、子どもの自尊感情が育まれます。

2 **一緒に解決するようにしましょう。**

子どもの言葉を真剣に受け止め、「一緒に問題を解決していこう」とする姿勢を示すことで、子どもは、安心して物事に挑戦し解決していこうとする態度が育まれます。

②きよしくんのお母さんが、エピソードのどの場面でどんな言葉をかけたら、きよしくんのやる気を引き出すことができそうですか。

場面	言葉
「あらっ、どうしたのこの結果は！」と言った場面	
「もっと一生懸命勉強～足りないわね。」と言った場面	
きよしくんが「ぼくだって、一生懸命やっているのに…。」と言った場面	

※ 保護者の心構えとして懇談会等で活用している例です。

保護者の皆様へ

～中学校保護者用～

中学生の家庭学習では・・・

- ◇ 部活動などで、家で過ごす時間が短くなるため、子ども自身が時間を上手に使えるようになることが大切です。
- ◇ 学習したことが成果として表れるには、時間がかかる場合もあります。子どもが継続して取り組むことが大切です。
- ◇ 夢や進路の実現のために、将来のことについて、折に触れて話し合うことが大切です。

学校では・・・

授業に集中して
取り組むよう指導
しています。



「早寝・早起き・朝ごはん」を実践させましょう。

テレビやゲーム・携帯などの約束を家庭で決めましょう。

学習机やカバンの中を整理整頓し、学習環境を整えさせましょう。

子どものやる気を引き出す6つのポイント

日頃の挨拶や言葉遣いなど、大人から実践しましょう。

自分に合った学習の仕方を身に付けさせましょう。

無理のない学習の計画を立て、結果を記録させましょう。

振り返ってみましょう。

- 毎日朝ご飯を食べさせていますか？
- テレビや携帯などのルールを守らせていますか？
- 家庭の中での挨拶や言葉遣いはいかかですか？

I 学力向上に関する取組について

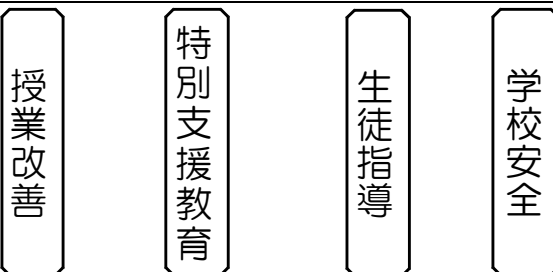
1 平成26年度学校教育の重点

函館市教育委員会では、毎年実施しているアプローチ評価と、平成24年度に実施した義務教育基本計画の中間評価の結果を基に、教育施策の動向や函館市の子どもの実態などを踏まえて、授業改善、特別支援教育、生徒指導、学校安全の4つを、今後の函館市の小・中学校の教育推進の重点項目と決めました。

そこで、「義務教育基本計画」後期（平成25年度～29年度）における4つの重点項目について、各学校・園の実態や本市の教育課題を考慮し、学校が取り組むべき基礎・基本を最後までやり切ることを目指し、平成26年度の学校教育推進の重点を設定するとともに、4つの重点指導事項として整理しました。

函館市義務教育基本計画（めざす子ども像）

「義務教育基本計画」後期における4つの重点項目



平成26年度 学校教育推進の重点

「豊かなつながりの中で『確かな学び』を実現する取組の推進」

～最後までやり切る指導を目指して～

平成26年度 重点指導事項

重点指導事項 I

粘り強さを育む
組織的な学習指導の
推進

重点指導事項 II

組織的な支援を
目指した
特別支援教育の推進

重点指導事項 III

支持的風土を築く
学年・学級経営の
推進

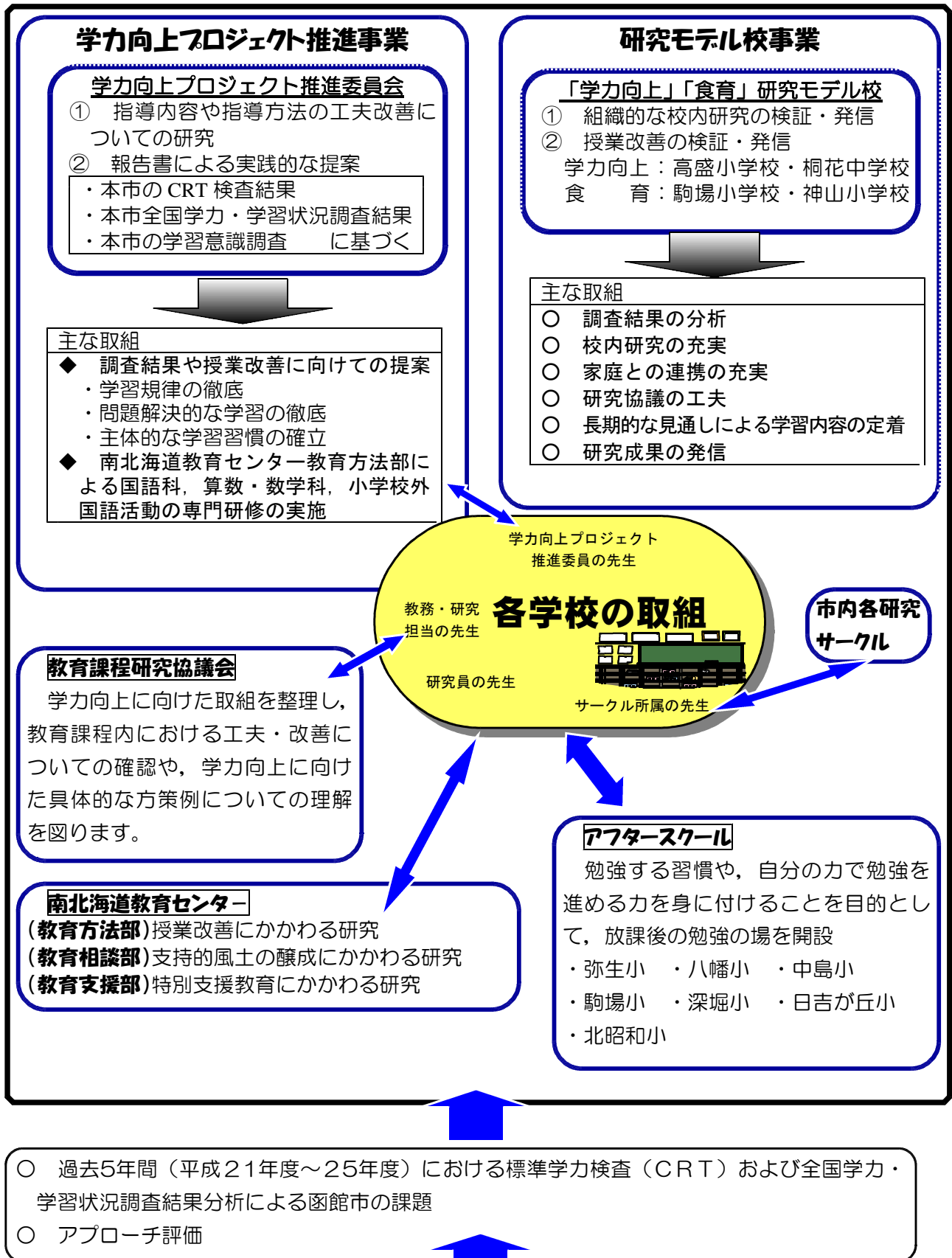
重点指導事項 IV

今日的な教育課題
の解決を図る取組
の推進

最後までやり切る指導を目指す！

2 学力向上関連事業

学 力 向 上



Ⅱ 学力向上を目指した学習指導案（実践例）

国語科

第3学年 国語科学習指導案

日 時：平成26年9月2日（火）第5教時

児 童：函館市立柏野小学校 第3学年2組29人

指導者：教 諭 吉田 麻夕子

1 単元名 「ねがいをうけ止めて読む」

○ 題材「わすれられないおくりもの」【9時間扱い】

2 単元について

学習指導要領の目標・内容

【第3学年及び第4学年の目標】

目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、幅広く読書しようとする態度を育てる。

【指導内容 C読むこと 文学的な文章の解釈】

ウ 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと。

【指導内容 C読むこと 自分の考えの形成及び交流】

エ 目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり、要約したりすること。

オ 文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと。

既習事項

○3年生4月「消しゴムころりん」

単元を貫く言語活動
物語を読み、感想を発表し合おう。

- ・登場人物さおりの人柄を叙述を基につかむ。
- ・登場人物さおりの気持ちの変化を行動や会話文から想像し、叙述を根拠としながら、考えをまとめる。
- ・感想をまとめ、発表し合う。

物語の読み方を学ぶ

○3年生2月「おにたのぼうし」

単元を貫く言語活動
おにが出てくる本や同じ作者の本を紹介しよう。

児童の実態

- ・国語の学習に対して、音読をしたり、気持ちを考えたりするなど意欲的に取り組む児童が多い。
- ・時間を見つけて進んで読書に取り組む児童が多い。互いに読んだ感想などを交流したり、本を紹介したりするなど、活発に活動をしている。
- ・様々な教科の中で、想像力を働かせるために、絵や図に表したり、短い言葉でまとめたりする活動を意図的に取り入れている。
- ・自信のなさから挙手できない児童がいるが、ハンドサイン（自信がある→パー、自信がない→グー）を用いてから、進んで手が挙がるようになってきた。

単元の特徴

- ・本単元では、場面と場面をつなげたり、比べたりして、登場人物の行動を考え、気持ちの変化をとらえる。また、登場人物の人柄や性格を叙述から読み取る力も身に付けるようにする。クイズにしたい所や本を見つけ、クイズを作り、説明することを言語活動として設定した。
- ・目的意識や相手意識を明確にする工夫として、本題材でクイズの作り方を学び、並行読書で読んだ本を用いて、友達同士でクイズ大会を行う。

単元の目標

【関心・意欲・態度】

- ・登場人物の性格や気持ちの変化について想像しながら、進んで読み、「クイズ」を作っている。

【読むこと】

- ・目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり、要約したりすることができる。〔C(1)エ〕

【言語についての知識・理解・技能】

- ・言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くことができる。〔(1)イ(ア)〕

言語活動

「クイズ大会を開こう！」

言語活動例：エ

3 授業作りの視点

《単元を通して身に付けさせたい力》

- 作品の内容を的確に読み取り、心情、場面、状況などを正しく把握する力
- 文章などを引用したり要約したりする力
- 幅広く読書しようとする態度

〔単元を貫く言語活動〕 クイズ大会を開こう！

〈重点指導事項〉

- 読むこと (1) エ
- 文章などを引用したり、要約したりすること。

【第1次】①

クイズにはどんなものがあるの？

- 単元を通して行う学習活動への見通しをもつ。
- 既習教材「消しゴムころりん」を用いてクイズ作りを行う。
- 「わすれられないおくりもの」でのクイズの作り方を確認する。

並行読書の活動

【第2次】②～⑥

難しいクイズ作りにチャレンジ！

- クイズにしたい所を探し、付箋紙を貼る。
- クイズにしたい所から必要な情報を選び、付箋紙にメモする。
- クイズにしたい所を、ワークシートにまとめる。
- 引用・要約の仕方を知る。
- 引用・要約を用いたクイズ作りを行う。
- クイズ大会を通して、難しいクイズ作りの際は、引用・要約をすることが大切であることを確認する。

【第3次】⑦～⑨

選んだ本をクイズで紹介しよう！

- 並行読書をした中から、紹介したい本を選び、クイズで紹介するためにワークシートにまとめる。
- ワークシートをもとに、クイズを作る。
- クイズ大会を通して、選んだ本を紹介する。

■視点1：単元を貫く言語活動の工夫

(1) クイズ作りの活動

児童主体の言語活動を充実させ、思考力・判断力・表現力等を育むことをねらいとしてクイズ大会を設定した。また、クイズの長所・短所を踏まえ、本単元では、引用・要約に重点を置いたクイズ作りの活動を行う。

〈クイズの長所〉

- ・学習への意欲を持続することができる。
- ・目的意識や相手意識の明確化を図ることができる。
- ・クイズ作りを通して、楽しみながら物語の内容を詳しく読み取ることができる。

〈クイズの短所〉

- ・子どもが問題を作ることに集中しすぎるあまり、物語の全体把握ができなくなる恐れがある。

(2) シリーズなどの並行読書の活動

- 「シリーズ学級文庫」の設置を通して、他の作品の叙述や場面との関連付けを図る。

■視点2：引用・要約のための工夫

(1) クイズの作り方や出題例の提示

既習教材を利用し、クイズを作る練習を行う。その際、子どもたちが作ったクイズを用い、出題方法の例を提示する。

- ・「登場人物クイズ」
- ・「話の展開クイズ」
- ・「作品・作者クイズ」

また、引用・要約する活動を行い、クイズを作る基としたり、答えの理由や根拠としたりする。

(2) 明確な要約の仕方の提示

要約の仕方を教室掲示し、いつでも確認できるようにする。学級内掲示では、「いつ」「どこで」「だれが」「何をした」という文の要点をとらえながらまとめることができるよう観点を示す。

この観点を基に要約を行うことで、それぞれの観点をクイズが作れることを確認する。

(3) ワークシートの活用

引用・要約の仕方についてより理解が深まるようにワークシートを活用する。

また、複数の場面を選びワークシートにまとめることにより、自分が書いた引用・要約の仕方を比較・検討したり、友達同士で交流したりする際にも効果的である。

4 単元の指導計画（9時間扱い、本時5／9）

	目 標	主な学習活動	評価規準（評価方法）
第1次①	単元全体の見通しをもち、進んで範読を聞いたりクイズを作ったりすることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単元を通して行う学習活動への見通しをもつ。 <ul style="list-style-type: none"> ・“アナグマさんシリーズ”の読み聞かせを行い、興味・関心を高める。 ○ クイズの作り方をを知るため、既習教材「消しゴムころりん」を用いてクイズ作りを行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・作成したクイズを全体で交流し、クイズにはいろいろな種類があることを確認する。 ・教師が例示したクイズと児童が作ったクイズを比較し、内容の違いについて知る。 ○ 「わすれられないおくりもの」でのクイズの作り方を確認する。 	【関】学習の見通しをもち、作品や登場人物の様子などを思い浮かべたり、進んで聞こうとしたりして、クイズを作ろうとしている。（態度観察）
第2次②	教材文を読み、クイズにしたい所を選ぶことができる。 教材文から必要な情報を選び、書き表すことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ※第2時間目以降からは、並行読書ができるように適宜時間を設け、読書への喚起を促す。 ○ クイズにしたい所を探し、付箋紙を貼る。 <ul style="list-style-type: none"> ・あなぐまがみんなに残したものについての場面 ・みんなが悲しんでいる場面 など ○ クイズにしたい所から必要な情報を選び、付箋紙にメモする。 	【読】登場人物の行動や会話、情景に着目しながら読み、クイズにしたい所を選んでいく。（観察・発表） 【言】教材文から必要な情報を選び、書き表している。（付箋紙）
③	クイズを作るため、詳しく読み取ることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時で選んだ所をクイズにするため、ワークシート（クイズじゅんぴシート）にまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに選んだ所の本文を写す。 ・まとめた文章の中で大切だと思う言葉に印を付ける。 ・選んだ文章のままでは、クイズにするには不自由であることを確認し、引用・要約の必要性に気付く。 	【読】教材文から必要な情報を選び、教材文をまとめたり、大切な言葉に印を付けたりしている。（ワークシート）
④	文章を引用したり、要約したりしながら、読むことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 既習教材を使い、引用・要約の仕方を知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・1時間目で作ったクイズを見直し、クイズを作るために引用・要約の仕方を知り、練習する。 ・要約のための観点（いつ・どこで・だれが・なにをした）を明確にし、要約の練習をする。 	【読】文章を引用したり、要約したりしながら、読み取っている。（ワークシート）
⑤ 〔本時〕	文章を引用したり、要約したりしながら、読むことができる。 言葉には考えをまとめる働きがあることに気付くことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 引用・要約を用いたクイズ作りを行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・前時で確認した『引用・要約の仕方』や教師の例示を基に、クイズや答えの書き方を確認する。 ・クイズを作るために選んだ場面を要約し、一文にする。 ・要約文を基に、クイズや答えをまとめる。 ・クイズについての感想をまとめる。 ・完成したら、友だちと交流し、アドバイスし合う。 ・完成したクイズをいくつか発表する。 	【読】文章を引用したり、要約したりしながら、読み取っている。（ワークシート） 【言】言葉には考えをまとめる働きがあることに気付いている。（ワークシート）
⑥	クイズ大会を通して引用・要約の大切さを実感することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ○ クイズ大会を通して、難しいクイズを作る際は、引用・要約をすることが大切であることを確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ①選んだ所に関係するクイズを出す。 ②クイズの答えを発表する。 ③要約した所を発表する。④感想など発表する。 	【関】進んでクイズ大会に参加し、引用・要約の必要性について考えている。（態度観察・感想発表）
第3次⑦	並行読書をして、紹介したい本をクイズにするため、詳しく読み取ることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 並行読書の中から、紹介したい本を選び、クイズで紹介するためにワークシートにまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・自分の紹介したい本を選び、“クイズじゅんぴシート”にまとめる。 ・クイズを作るために、詳しく読むよう声をかける。 	【読】クイズにしたい本を選び、ワークシートに、本文をまとめたり、大切な言葉に印を付けたりしている。（ワークシート）
⑧	文章を引用したり、要約したりしながら、読むことができる。 言葉には考えをまとめる働きがあることに気付くことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ○ ワークシートをもとに、クイズを作る。 <ul style="list-style-type: none"> ・前回と同じ手順で、紹介のためのクイズを作る。 ①場面の要約をする。 ②クイズを作る。 ③答えをまとめる。 ④感想を考える。 	【読】文章を引用したり、要約したりしながら、読み取っている。（ワークシート） 【言】言葉には考えをまとめる働きがあることに気付いている。（ワークシート）
⑨	クイズ大会を通して、読書への意欲を高めることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ○ クイズ大会を通して、選んだ本を紹介する。 <ul style="list-style-type: none"> ・「シリーズ学級文庫」で読んだ中からクイズで紹介する本を選ぶ。 	【関】進んでクイズ大会に参加し、本を紹介しようとしている。（態度観察）

5 本時の学習計画 (5/9)

(1) 目標

- ・文章を引用したり、要約したりしながら、読むことができる。【読むこと】
- ・言葉には考えをまとめる働きがあることに気付くことができる。【言語についての知識・理解・技能】

(2) 展開

	○子どもの活動 ・ 教師のかかわり	評価規準 (評価方法) △努力を要する子への 手立て
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時に学習した引用、要約の仕方を振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 掲示物を利用して引用・要約の仕方を確認する。 ○ 本時の学習課題を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>か むずかしいクイズを作ろう！！</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ むずかしいクイズを作るための手立てとして、「友だちに伝える文にする」ことを確認する。 ○ 教師の例示からワークシートの書き方を知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・ クイズのもと (要約文)、クイズ、クイズの答えの書き方を拡大ワークシートに例示し、確認する。 	
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○ “クイズじゅんぴシート”を基に、選んだ所を要約する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 長い文のままではクイズにするときに不自由であることに気付かせ、要約の必要性を確認する。 ・ 要約の仕方で悩んでいる子どもには、例示やワークシートに載っている「引用・要約文の作り方」を確認するよう促す。 ○ 要約した文を基に、クイズやクイズの答えを考える。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>クイズにしたいところ九三 要約『あるあたたい春の 日に、いつかかけっこした おかで、もぐらがあなぐま におれいを言った』 問『あるあたたい春の日 にかけっこをしたおかで、 もぐらは何をしたのでしょ うか？』 答『あなぐまにおれいを言 った。』</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>クイズにしたいところ八七 要約『次の日の朝、あなぐ まの家で、きつねが悲しい 知らせをつたえました。』 問『きつねが悲しい知らせ をつたえた時に読んだ手紙 はどんな内ようでした か？』 答『長いトンネルの向こ うに行くよ。さようなら あなぐまより』</p> </div> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 隣の席の友だちとワークシートを交換し、アドバイスし合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 友だちの要約がわかりやすくまとめられているかどうかを『引用・要約の例示』を参考に付箋紙にアドバイスを記入するようになる。よりよい方法があれば記入し、返却する。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: 30%;"> <p>「いつ・どこで・だれが ・何をした」でまとめて いてわかりやすいね。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: 30%;"> <p>クイズのもとからク イズにすると作りやす いね。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: 30%;"> <p>もうちょっと短い文 にしてもいいかな？</p> </div> </div> 	<p>【読】文章を引用したり、要約したりしながら、読み取っている。(ワークシート)</p> <p>△ 叙述から大事な言葉を再度探すように声をかけたり、引用・要約の仕方を確認したりするよう働きかける。</p> <p>△ ヒントとなるワークシートを準備する。</p> <p>①各項目の説明が記載されているワークシート</p> <p>②特に困難が予想される状況に対応したワークシート</p> <p>【言】言葉には考えをまとめる働きがあることに気付いている。(ワークシート)</p> <p>△ クイズ例などを参考にするよう促す。</p>
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 完成した子ども数名を発表させ、次の時間の意欲を高める。 ・ 発表から、よりよい引用や要約の方法を確認し、まとめを行う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>ま ・物語の内容をくわしく読むと、むずかしいクイズが作れる。 ・くわしく読むためには、「いつ・どこで・だれが・何をした」をはっきりさせるとよい。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 感想を書き、今日の授業を振り返る。 ○ 次時の「クイズ大会」の活動内容を知る。 	

日 時：平成26年11月20日（木）第5教時
 児 童：函館市立港小学校 第5学年1組 35名
 指導者：教諭 佐々木 誠（T1）
 教諭 熊 倉 ひとみ（T2）

1 単元名 「百分率とグラフ」（13時間扱い）

2 単元について

学 習 指 導 要 領 の 目 標 ・ 内 容

D 数量関係

- (3) 百分率について理解できるようにする。
 (4) 目的に応じて資料を集めて分類整理し、円グラフや帯グラフを用いて表したり、特徴を調べたりすることができるようにする。

(内容の取扱い)

- (4) 内容の「D数量関係」の(3)については、歩合の表し方について触れるものとする。

既 習 事 項

- ・ A, B の2量があって、B が A の 0.4 倍であるとき、「A を 1 とみると B は 0.4 にあたる」という割合の見方は第 4 学年の整数倍、小数倍、第 5 学年の小数倍の中で扱ってきている。
- ・ また、第 5 学年第 4 単元「小数のわり算」では、準小数倍による増加率の比較も経験している。

児 童 の 実 態

- ・ 算数の学習に苦手意識をもっている子どもが多いが、諦めずに取り組むことができる。
- ・ 既習などを生かすきれずに手が止まってしまう子どもが10名前後いる。
- ・ 友達の解き方についてもすぐに理解し、付け足したり、別な説明と関連付けたりすることができる子どももいるなど個人差が大きい。

単 元 の 特 徴

- ・ 本単元では百分率を含む割合の意味とその求め方、表し方を学習する。2つの数量の関係を、もともとなる量(基準量)を1とみたとき、他方の量(比較量)がどれだけにあたるのかという見方を育てていく。
- ・ 割合や百分率を含む数量関係を把握することが難しいため、数直線を活用していく。

単 元 の 目 標

- 資料における数量の比較や全体や部分の関係の考察などで割合を用いる場合があることや、その表し方についての百分率について理解するとともに、資料を円グラフや帯グラフを用いて表したり、特徴を調べたりすることができるようにする。

- ・ 割合を用いて比較したり考察したりするよさに気付き、生活や学習に用いようとする。

【関心・意欲・態度】

- ・ 倍の見方を基に割合を考え、目的や場面に応じて数量の大きさの間の関係を割合でとらえることができる。

【数学的な考え方】

- ・ 数量の関係から割合や百分率、基準量、比較量を求めたり、資料の全体と部分などの関係を表す割合を円グラフや帯グラフに表したりすることができる。

【技能】

- ・ 割合や百分率、基準量、比較量の求め方や、円グラフや帯グラフのかき方及び歩合の表し方を理解する。

【知識・理解】

3 授業づくりの視点

【視点1】 算数的活動（言語活動）の充実

学習指導要領の教科の目標には、「算数的活動を通して、数量や図形についての基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、日常の事象について見通しをもち筋道を立てて考え、表現する能力を育てる。」とある。

日常の言語をはじめ、数、式、図、表、グラフ、数直線（本時）などを様々な表現の手段を用いることが言語活動であり、自分の考えを、筋道を立て根拠に基づいて表現することで、よりよい考えを作ることができるようにしていく。そのことによって、交流場面においては、解法についての様々な考えを出し合い、お互いに学び合っていくことができるようになる。文章問題から読み取りをさせたり、自分の考えを表したり、友達の考えを説明させたりする言語活動を取り入れることで、思考力・判断力・表現力等を育む。

言語活動のポイントは以下のとおりである。なお、数・式など算数で扱う言葉は抽象的であるため、子どもの実生活や他の教科との関連で、実感をもたせていくことも考慮していく。

○ 数直線

⇒数直線を「考える」ための重要なアイテムとする。したがって、単元を通して数直線をかくことを意識させ、本時でも生かせるよう習熟させておく。

○ 考えを広げる工夫

⇒自力解決では自分の考えをしっかりとつ場を設け、集団検討では、自分の考えと比べながら友達の考えを読み取ったり、説明したりする活動を取り入れる。それにより、他の考えにも目を向け、互いのよさに気付かせていく。また、発表グループをその場でつくり、曖昧な言葉を互いにつなぎ合わせたり、付け足したりすることで、表現力の向上を図る。

【視点2】 問題解決的な学習の工夫

学習指導要領の実施の下、これからの子どもたちには、基礎的・基本的な知識や技能はもちろんのこと、これに加えて、「学ぶ意欲」や「思考力・判断力・表現力等」を含めた幅広い学力を育てることが求められている。また、学習指導要領総則には、次のように示されている。

各教科等の指導に当たっては、体験的な学習や基礎的・基本的な知識及び技能を活用した問題解決的な学習を重視するとともに、児童の興味・関心を生かし、自主的、自発的な学習が促されるよう工夫すること。〈2.（2）〉

（学習指導要領 総則「第4 指導計画作成等に当たって配慮すべき事項」より）

つまり、「学ぶ意欲」や「思考力・判断力・表現力等」を含めた幅広い学力を育てるためには、体験的な学習や基礎的・基本的な知識・技能を活用した問題解決的な学習を充実させることが必要である。

本時の学習内容は、「数直線の考え方」「□を使った式」「百分率」「四則の計算」を全て習得していないと理解できない内容である。それゆえ、子どもがこれまでの既習事項を基に、問題解決に向けた方策を「考え」「調べ」「まとめる」といった能動的な学習を展開することができ、その問題解決の過程を通して、本時の学習内容のみならず、これまでの既習事項の確認や定着にもつながる。途中、誤答が出ることも予想されるが、これについても間違った部分を検証させることで、その解決策を模索する中から、思考力や判断力の育成にもつながると考える。

自ら問題を解決する意識を芽生えさせることで、子どもの知的好奇心を刺激し、自らの学ぶ意欲を高める効果にも期待し、以下の点を、単元を通した工夫のポイントとする。

○ 問題提示・見通し

⇒生活に即した問題を提示することにより、子どもの必要感を喚起する。その後、個人差に対応できるよう「見通し」をもたせる。全員で「問い」を共有し、解決に向かうための時間とし、ある程度、答えにつながるヒントが出てよいこととする。

○ 自力解決

⇒自力解決を個人で思考する時間とし、解決まで至らなくてもよいこととした。その後の様々な学び合いを通して、解決の方策を知る。

○ 適用問題

⇒問題解決的な学習の課題としてあげられる「問題解決」だけで終わらぬよう、適用問題を取り入れる。本時で学んだことを生かして、より「実生活に生かす」感覚をもたせたいと考えた。

【視点3】 効果的・意図的なノート指導

問題解決的な学習の過程の中では、子どものノートの内容が思考や学びの足跡となるよう、メモしたり、自分や友達の考えなどについて書き表したりすることが大切である。

本単元では、子どもが筋道を立てて考え、自分の考えを書き表す学習活動の展開を重視し効果的・意図的なノート指導を行う。

具体的な手立ては以下のとおりである。

○ 板書構成の工夫

⇒子どもが学習過程の流れにそった記述ができるよう、ノートと連動した板書構成の工夫をする。

○ ノートの例示

⇒既習事項を活用し、言葉や図、式などで自分の考えが書き表されたノートになるよう、ノートの書き方の例示や、見本となるようなノートを教室に掲示し、ノートのよりよい書き方について啓発する。

○ 気付きのメモ

⇒子どもが、自分の考えと友達の考えとの共通点や相違点について比較・検討、整理しやすいよう、友達の考えや大切だと思うところをノートにメモすることを習慣付ける。

4 単元の指導計画（13時間扱い、本時7/13）

時	◎ 目標 ○ 子どもの活動	・教師のかかわり 【評価】
1 ・ 2	<p>◎ 割合の意味を理解し、比較量と基準量から割合を求めることができる。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">上の4試合のうち、シュートが一番よく成功したといえるのは何試合めですか。</p> <p>○ 4試合のシュートの記録の比べ方を考えるための見通しをもつ。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> 入れた数が同じ場合は、シュート数で比べよう。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> シュート数が同じ場合は、入れた数が多い方が、よく成功したといえるね </div> </div> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">どのように比べればよいか考えよう。</p> <p>○ 各試合のシュートの入れた割合を求める。 ○ 割合を求める式をまとめる。 ○ 1を超える割合について考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> $\text{割合} = \text{比べられる量} \div \text{もとにする量}$ ※割合が1をこえることもある </div>	<p>・教師のかかわり 【評価】</p> <p>【関心・意欲・態度】 数量を比べるときに、差では妥当性を欠くことに気付き、倍の見方を用いて比べようとしている。（観察・発表）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いつでも比べられそうな方法について考えるよう促す。 ・シュート数を1とみることを強調する。 ・何が比較量で何が基準量であるかを見極めるため、しっかりと話し合わせながら数直線上に表していく。 <p>【数学的な考え方】 数量を比べるときに、全体を1とみて部分の大きさを表して比べる方法を考え、説明している。（発表・ノート）</p>
3	<p>◎ 百分率や歩合の意味とその表し方を理解する。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">みどりさんの学校の5年生の人数は80人で、サッカークラブに入っている人は12人です。5年生の人数をもとにしたサッカークラブの人数の割合を求めましょう。</p> <p>○ 5年生の人数をもとにした、サッカークラブに入っている人の割合を求める見通しをもつ。 ○ 「パーセント (%)」「百分率」を知り、割合を百分率で表す。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> 百分率はもとにする量を100と見たときの割合なんだね。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> 百分率は割合を整数で表すことができて分かりやすいね。 </div> </div> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">割合を表す0.01を1パーセントといい、1%と書く。パーセントで表した割合を百分率という。</p> <p>○ 「算数のおはなし」を読んで、「歩合」の意味と、「割」「分」「厘」が日常生活のなかで用いられていることを知る。</p>	<p>【技能】 割合を百分率で表したり、百分率で表された割合を小数で表したりすることができる。（発表・ノート）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・百分率で表すよさを伝える。 <p>【知識・理解】 百分率や歩合による割合の表し方を理解している。（観察・発表）</p>
4	<p>◎ 比較量は、基準量×割合で求められることを理解する。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">右のジュースは全部で300mLです。このうち果汁が20%ふくまれています。右のジュースに入っている果汁は何mLですか。</p> <p>○ 果汁20%の300mLのジュースに含まれている、果汁の量の求める見通しをもつ。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">もとにする量と割合から、比べられる量を求める方法を考えよう。</p> <p>○ 比較量を求める式をまとめる。 ○ 割合を求める式と比較量を求める式を比べ、各量の関係を確認する。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> 数直線から300の0.2倍と考えて、300×0.2で式は表せられるね。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> 割合を求める式に当てはめると、$\square \div 300 = 0.2$となつて、計算がよく分からないね。 </div> </div> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">比べられる量 = もとにする量 × 割合</p>	<p>【関心・意欲・態度】 比較量を求める場面を、倍の第2用法の場面と統合的にとらえようとしている。（ノート・観察）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉の式に表すことを目標とする。 ・図を活用することで答えの見通しをしっかりとつ場を設ける。 <p>【技能】 基準量と割合から比較量を求めることができる。（発表・ノート）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報過多の問題は、じっくりと問題を読ませ、基準量と比較量を数直線に整理するよう促す。

◎ 基準量は、比較量÷割合で求められることを理解する。

1週間前に生まれたねこがいます。このねこの体重をはか
ったら、168gでした。168gは、生まれた直後の体重の160%
にあたります。
このねこの生まれた直後の体重は何gですか。

○ 1週間前に生まれた直後のねこの体重168gが生まれた直後
の160%にあたる時、生まれた直後のねこの体重の求め方
の見直しをもつ。

比べられる量と割合から、もとにする量を求める方法を考
えよう。

○ 基準量を求める式をまとめる。

答えは 168g より軽くなる
ね。

160%を割合で表すと 1.6
だね。

もとにする量を求めるときは、□を使って、比べられる量
を求める「かけ算の式」に表して考えると、求めやすくな
る。

○ 基準量や比較量を求める問題に取り組む。

◎ 差を含んだ割合の場合について、比較量を求める方法につ
いて考えることができる。

A店では250円のペンを30%引きのねだんで売っていま
す。B店では同じ250円のペンを60円引きで売っています。
どちらのお店で買う方がお得ですか。

○ 250円のペンを30%引きで買うときの、値段の求め方の見
直しをもつ。

問題がよく分からないから
数直線に表してみよう。

30%の値段と 30%引きの
値段は違う意味だね。

割引した代金を求める方法を考えよう。

○ 数直線を手がかりにして、自力解決に取り組む。

○ 友達の考えを説明し、集団検討する。

割引されるのはもとの値
段の30%だから、
 $250 \times 0.3 = 75$
もとの値段から割引分を
引いて
 $250 - 75 = 175$

数直線から求める代金の
割合は $1 - 0.3$
 $250 \times (1 - 0.3) = 175$

割引後の代金が 0.7 になる
ということなんだね。

割引した代金を求める方法は、2通りある。
① 引かれる分を求めて、もとの値段から引く。
② もとの値段 \times (1 - 割引した割合)

○ 2000円の人形を20%引きで買うときの代金を求める。

◎ 学習内容を適用して問題を解決する。

◎ 日常の事象や資料を数量的に考察する場合に、割合を用い
ると分かりやすいといったよさや有用性を感じ得る。

○ 教科書P.60の問題に取り組む。

○ 「力をつけるもんだい」に取り組む。

○ 「算数のおはなし」を読んで、地球上で失われていく森林
の割合について調べる。

・数直線に数量の関係をはっきりと
示す場を設け、問題構造を全体で確
認する。
・未知のものを□で表すよさを確認
する。

【数学的な考え方】
基準量を求める式を導くのに、□を
用いた比較量を求める式を基に考
え、説明している。(発表・ノート)

・一見しただけでは分かりにくい問
題に取り組み、話し合いをもつこと
で数直線に関係性を表していく。

【技能】
比較量と割合から基準量を□とし
て立式して求めることができる。
(発表・ノート)

・30%引きに着目し、これまでの問
題とどこが違うかを考えるよう促
す。
・代金がどのくらいになりそうか見
直しをもつ場を設ける。

【数学的な考え方】
割引の場面で、引かれる金額や割合
に着目して解決の仕方を考えてい
る。(発表・ノート)

・説明できそうな考えを決定させ、グ
ループなどで発表する時間をもつ。
・数直線を使って、分かりやすく説明
するよう促す。

【知識・理解】
割合の差を含んだ場合の、比較量や
基準量の求め方を理解している。
(発表・ワークシート)

【技能】
学習内容を適用して、問題を解決す
ることができる。(発表・ノート)

5

6

7

(本
時)

8

<p>9 ・ 10</p>	<p>◎ 帯グラフや円グラフの読み方や特徴を理解する。</p> <p>右の表は、日本の地方別の米の収かく量と割合を表したものです。 この表をグラフに表しましょう。</p> <p>○ 地方別の米の収穫量の割合はどのようなグラフに表せばよいか見通しをもつ。</p> <p>割合を表すグラフについて考えよう。</p> <p>割合を棒グラフで表しても、収かく量のグラフと変わらないな。 合計が 100%だから、全体を 100 で表せるグラフがいいね。</p> <p>○ 「帯グラフ」「円グラフ」を知る。 ○ 地方別の米の収穫量の、帯グラフ、円グラフを読む。 ○ 各部分の割合を読み取る。</p> <p>帯グラフと円グラフは、全体をもとにした各部分の割合をみたり、部分どうしの割合を比べたりするのに便利である。</p>	<p>【関心・意欲・態度】 帯グラフや円グラフは、全体に対する部分の割合が視覚的にとらえやすいというよさに気づき、資料の特徴や傾向をとらえようとしている。(観察・発表)</p> <p>・目盛りを正確に数えることが難しい場合は、鉛筆などを使って丁寧に数え、表にかかっている割合と一致していることを全体で確認する。</p> <p>【知識・理解】 帯グラフ、円グラフの読み方を理解している。(発表・ノート)</p> <p>・グラフから読み取れることをできるだけ多く見つけるように促す。</p>
<p>11</p>	<p>◎ 帯グラフや円グラフのかき方を理解する。</p> <p>下の表は、「また食べたい給食メニュー」について北小学校でアンケートを行った結果です。 これを帯グラフや円グラフに表しましょう。</p> <p>○ また食べたい給食のメニューの割合を百分率で求めて、それを帯グラフと円グラフに表す。</p> <p>① 各部分の割合を百分率で求める。 合計が 100%にならないときは、割合の一番大きい部分か「その他」を増やしたり減らしたりして合計を 100%にする。 ② ふつう、割合の大きい順に各部分をそれぞれの百分率にしたがって区切る。</p>	<p>【関心・意欲・態度】 帯グラフや円グラフでの表し方に関心をもち、特徴がとらえやすいように工夫しようとしている。(観察)</p> <p>・電卓の使用を認める。 ・百分率の和が 100 にならないことがあることを丁寧に扱う。</p> <p>【技能】 帯グラフや円グラフをかくことができる。(観察・ワークシート)</p>
<p>12</p>	<p>◎ グラフから、割合や絶対量を読み取り、問題を解決することができる。</p> <p>下のグラフは、東小学校と西小学校の、一学期のけが調べの結果を、けがの種類ごとに表したものです。 下のグラフから、いろいろなことを読み取りましょう。</p> <p>2つのグラフからいろいろなことを読み取ろう。</p> <p>○ 東小と西小のけが調べの、割合や絶対量を読み取り、理由を発表し合う。</p> <p>割合は多くても全体の数が違うと比べられないな。 件数は割合だけでは比べられないな。</p> <p>グラフを読み取る際には、割合と全体の両方を意識して判断していくとよい。</p>	<p>【数学的な考え方】 割合の多少と絶対量の多少は一致しないことに気づき、その理由を説明している。(発表・ノート)</p> <p>・倍の関係は割合のみで比べられることを確認する。 ・ノートに説明を書かせることにより、自分の考えを整理するよう促す。</p>
<p>13</p>	<p>◎ 学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。</p> <p>○ 「しあげのもんだい」に取り組む。</p>	<p>【知識・理解】 基本的な学習内容を身に付けている。(発表・ノート)</p>

6. 本時の指導計画 (7/13)

(1) 目標

- ◎ 差を含んだ割合の場合について、比較量を求める方法について考えることができる。

【数学的な考え方】

- ◎ 割合の差を含んだ場合の比較量や基準量の求め方を理解する。

【知識・理解】

(2) 展開

	子どもの活動	教師のかかわり	評価 △努力を要する子への手立て
導	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時の確認をする。 ○ 本時の問題を知る。 <p style="text-align: right;">視点3</p> <p>A店では250円のペンを30%引きのねだんで売っています。B店では同じ250円のペンを60円引きで売っています。どちらのお店で買う方がお得ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ どちらで買う方がお得か予想し、代金の求め方の見通しをもつ。 <p style="text-align: right;">視点2</p> <p>B店は、250-60で、190円で買えるね。</p> <p>A店もB店も同じくらいの値段になりそうだな。</p> <p>数直線に表すと少し整理できそうだね。</p> <p>30%の値段と30%引きの値段は違う意味だね。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ めあてを決める。 <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">割引した代金を求める方法を考えよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 掲示物を確認する。(T2) ・ 30%引きに着目し、これまでとどこが違うかを考えるよう促す。 ・ お得という言葉から、値段を求めることへの意欲付けを行う。 ・ 見通す場面ですっきりと、自分の考えをもつ場を設ける。 	
展	<ul style="list-style-type: none"> ○ 数直線を手がかりにして、自力解決に取り組む。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>0 □ 250(円)</p> <p>0 0.3 1 割合</p> <p>$250 \times 0.3 = 75$</p> <p>$250 - 75 = 175$</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>0 □ 250(円)</p> <p>0 0.7 1 割合</p> <p>$1 - 0.3 = 0.7$</p> <p>$250 \times 0.7 = 175$</p> </div> </div> <p style="text-align: right;">視点2</p> <p>$250 - 250 \times 0.3 = 175$ $250 \times (1 - 0.3) = 175$</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 友達の考えを説明する。 <p>割引されるのはもとの値段の30%だから、$250 \times 0.3 = 75$ もとの値段から割引分を引いて $250 - 75 = 175$</p> <p>数直線から求める代金の割合は $1 - 0.3$ $250 \times (1 - 0.3) = 175$ 視点1</p> <p>割引後の代金が0.7になるということなんだね。</p> <p>$250 \times 0.7 = 175$ 視点3</p> <p>これを一気に書くと、式の意味がよく分からなくなるね。</p> <p>$250 \times 0.3 = 75$ 円なら安すぎるな。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 机間巡視を行い、手立てが必要な子どもについて情報交換する。(T1・T2) ・ 説明できそうな式のところにネームプレートを貼り、グループなどで発表するよう促す。 ・ 適宜メモをとるよう声を掛ける。 ・ 数直線も用いながら、分かりやすく説明するよう促す。 	<p>【数学的な考え方】割引の場面で、引かれる金額や割合に着目して解決の仕方を考えている。(観察・発表・ノート)</p> <p>△ヒントカードを適宜与える。友達にヒントをもらいに行くよう促す。</p>
終	<ul style="list-style-type: none"> ○ 分かったことをまとめる。 <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">割引した代金を求める方法は大きく分けて2通りある。</p> <p>①割引分を求めて、もとの値段から引く。</p> <p>②もとの値段×(1-割引した割合)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 適用問題に取り組む。 <p style="text-align: right;">視点2</p> <p>2000円のジバニャンの人形を買おうと思います。20%引きで買うときの代金はいくらですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活に即した適用問題を提示する。 	<p>【知識・理解】割合の差を含んだ場合の、比較量や基準量の求め方を理解している。(発表・ワークシート)</p> <p>△生活場面を想起するよう促す。</p>

日時：平成26年9月19日（金）第5教時
 児童：函館市立金堀小学校 第6学年2組25名
 指導者：教諭 滝口 大輔

1 単元名 “Let’s go to Italy. ” (Hi, friends!2 Lesson5)

○題材名「どこの国に行ってみたいですか」（4時間扱い）

2 単元について

学習指導要領の目標・内容

外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションをを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う。

既習事項

- 前単元のLesson4では、go straight, turn rightなどの表現を使って、自分で作った地図で友だちに道案内をする活動を行ってきた。go straight, turn rightなどの意味を覚えて活用することができるようになった。
- 単元の中心となる表現については、繰り返し発話したり発音させたりすることで、身に付けさせてきた。毎時間、前単元の表現も積極的に復習させることで、授業の中で生かせるようにしてきた。

児童の実態

- 自己表現は苦手な傾向があるが、グループや学級全体でゲームやコミュニケーションを図る活動には、楽しみながら取り組む様子が見られる。
- 全般的に自己表現はできるが、自分から積極的に発言することを好まない児童が多い。しかし、外国語活動になると、積極的にゲームに参加するなど、会話を楽しむ様子が見られる。
- 英語を習っているため、学校では習わない表現などを使う児童もいる。一方、外国語活動を苦手と感じている児童は、発言できなくなってしまうこともある。

単元の特徴

- 世界には様々な人たちが様々な生活をしていることに気づき、世界のいろいろな国に興味をもたせたい。
- 本単元では、世界の国々の文化が題材となっている。おすすめの国を紹介する活動を通して、コミュニケーションを図る楽しさを味わいながら、自分の思いをはっきりと伝えさせたい。

単元の目標

- 自分の思いが友だちにはっきり伝わるように、おすすめの国について発表したり、積極的に聞いたりしようとする。 【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】
- 行きたい国について尋ねる表現に慣れ親しむ。 【外国語への慣れ親しみ】
- 世界には様々な人たちが様々な生活をしていることに気付く。 【言語や文化に関する気づき】

3 授業づくりの視点

ポイント1 言語活動の充実 ～聞く活動・話す活動を重視した授業構築の工夫～

○ 親しむこと、表現すること、コミュニケーションを図ることに自信をもたせる聞く活動、話す活動の設定

- ・チャンツを通して、外国語の音声や基本的な表現を学ぶ。
- ・特有の表現が使われる場面（あいさつ、自己紹介、買い物など）や、児童の暮らしにかかわる場面（学校の行事、地域の行事など）などの設定により、外国語の活用に親しませる。

など

ポイント2 見通しをもったり、振り返ったりする学習活動の重視

○ 単元の目標を教師と児童が共有し、各時間の目標に見通しをもたせ、随時振り返る場面の設定

- ・単元の始まりに教師が単元の目標を児童に伝える。
- ・目標達成に向けた必要な学習活動を児童に選択させることにより、主体的な学習に結び付ける。
- ・「目標は達成できたか」「気付いたことは何か」など、視点を明確にして振り返る場面を設定することにより、次の学習への意欲につなげる。

など

ポイント3 積極的にコミュニケーションを図る学習展開の工夫

○ 言葉、ジェスチャー、表情など、コミュニケーションへの積極的な態度を身に付ける場面の設定

- ・どの児童も積極的に活動できる雰囲気をつくる。
- ・慣れ親しんだ語彙や表現を使用することによって、「言いたいことを英語で伝えられた」「相手の言いたいことがわかった」「積極的にコミュニケーションを図っている」などを実感させる。

など

4 単元の指導計画（ 4時間扱い、本時 3 / 4 ）

時間	目 標	主な学習活動	評価規準（評価方法）
1	国旗クイズを作り、英語を使って友だちと話して、国名の言い方に慣れよう。	<ul style="list-style-type: none"> Let's play 1 ()に国名を書こう。 Let's play 2 国旗あてクイズを作ろう。 Let's chant Let's go to Italy① キーワードゲーム 	<ul style="list-style-type: none"> 世界には様々な人たちが様々な生活をしていることに気付いている。 【気】（行動観察） 行きたい国について尋ねたり答えたりしている。 【慣】（行動観察）
2	行きたい国について尋ねたり答えたりする言い方を知ろう。	<ul style="list-style-type: none"> Let's play 1 ()に国名を書こう。 Let's play 2 国旗あてクイズを作ろう。 Let's chant Let's go to Italy① Let's listen 1 世界遺産 キーワードゲーム Let's chant Let's go to Italy②③ 	<ul style="list-style-type: none"> 国名を積極的に尋ねたり答えたりしようとしている。 【関】（行動観察） 行きたい国について尋ねたり答えたりしている。 【慣】（行動観察）
3 本時	行きたい国について尋ねたり答えたりする言い方に慣れよう。	<ul style="list-style-type: none"> Let's chant Let's go to Italy②③ ラッキーカードゲーム Let's play 3 友達に行きたい国をインタビューしよう。 	<ul style="list-style-type: none"> 表現に合ったゲームを選んで、友だちと積極的に関わろうとしている。 【関】（行動観察） 行きたい国について尋ねたり答えたりしている。 【慣】（ワークシート点検・行動観察）
4	行きたい国を紹介したり、友だちの思いを聞いたりして、積極的に交流しよう。	<ul style="list-style-type: none"> Let's chant Let's go to Italy②③ Let's Listen 2 わかったことを書こう。 Activity おすすめの国を紹介しよう。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分のおすすめの国やその理由について、スピーチやクイズを通して、友だちと交流している。 【関】（行動観察） 行きたい国やその理由の英語での言い方に親しんでいる。 【慣】（行動観察）

5 本時の学習計画

(1) 目標

- ・表現に合ったゲームを選んで、友だちと積極的に関わる。
【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】
- ・行きたい国について尋ねたり答えたりする。

【外国語への慣れ親しみ】

(2) 展開

子どもの活動	教師のかかわり	◎評価規準 △努力を要する子への手立て
<ul style="list-style-type: none"> ○ 挨拶をする。 ○ 国旗の言い方を復習するために、自分たちでゲームを選び、実行する。 ○ チャンツで既習事項を確認する。 I want to go to ~ I want to eat ~ I want to see ~ ○ 今日の学習の目標を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今までに行ったゲームから、目的に合ったゲームを選べるように支援する。 <p>ポイント1</p>	
◎行きたい国についてたずねたりや答えたりしよう。		
<ul style="list-style-type: none"> ○ 今日学習する英語表現の使い方や意味について確認する。 Where do you want to go ? I want to go to ~ I want to see ~ ○ 上の表現を使って尋ねたり答えたりするのに慣れるには、どのようなゲームをすればいいのかを話し合う。 <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; font-size: small;"> キーワードゲームは面白いけど、会話の練習では使いにくいね。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; font-size: small;"> 前の学習で、ラッキーカードゲームで会話をしたらうまくいったから、今回も向いてるんじゃないかな。 </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・根拠をもって決定するように話し合わせる。 <p>ポイント2</p> <p>ポイント2</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 表現に合ったゲームを選んで、友だちと積極的に関わろうとしている。【関】(行動観察) △ 積極的に参加できない児童には、教師がゲームのやり方を教えて支援する。
<ul style="list-style-type: none"> ○ 班でラッキーカードゲームを行い、表現に親しむ。 ○ Let's play 3 のSakura, Hikaru, Tomoe のインタビューのところを聞き取って日本語の内容をワークシートに書く。 ○ 友だちに行きたい国について尋ねて、分かったことをワークシートに書く。 ○ インタビューを発表する。 ○ 本時の学習を振り返る。「ふりかえりカード」に、今日の目標、外国語活動での3つの目標について書いて、発表する。 ○ 次時の学習への想起する。 ○ 挨拶をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・聞き取りのポイントを伝え、使っている語彙を紹介する。 ・I want to see ~を使って表現するように指示する。 <p>ポイント1</p> <p>ポイント3</p> <p>ポイント2</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 行きたい国について尋ねたり答えたりしている。【慣】(ワークシート点検・行動観察) △ 自分から友だちに関わるのが苦手な児童には、教師がインタビューする相手を見つけて尋ねる支援をする。

2 平成26年度全国学力・学習状況調査の結果から

(1) 平成26年度全国学力・学習状況調査結果(概要)

学力の状況 (函館市の状況)

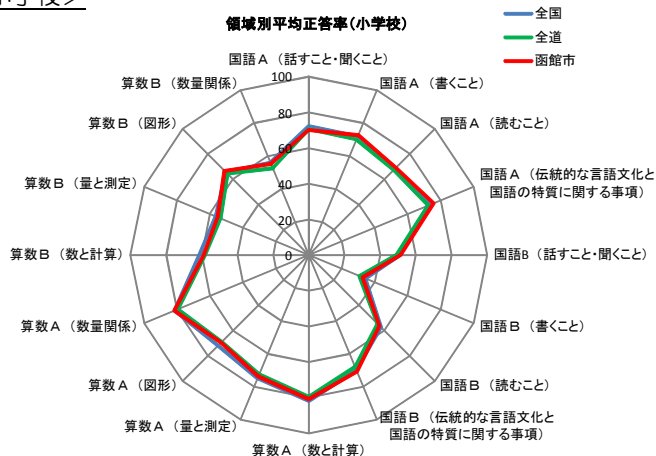
「全国と同程度」

○ 小・中学校とも、全科目の平均正答率において、全国と同程度（-1.6～+1.4ポイントの範囲内）であった。（平均正答問題数で見た場合-0.43問～+0.12問の範囲内の差）

「A問題：高，B問題：低」

○ 国語、算数・数学とも、A問題の正答率は比較的高く、B問題の正答率は比較的低い。

<小学校>



<他領域との比較から>

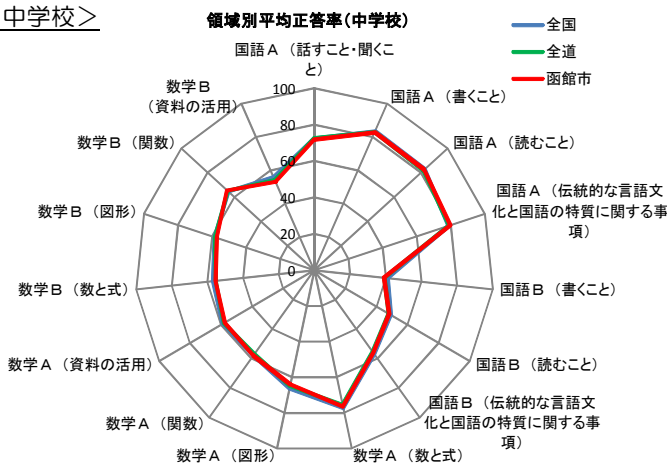
【小学校】

- ・ 国語Aの各領域は高い。
- ・ 国語Bの「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」が低い。
- ・ 算数Aの各領域は高い。
- ・ 算数Bの「量と測定」「数量関係」が低い。

【平均正答率】

	国語A	国語B	算数A	算数B
函館市	74.3	54.8	77.1	56.6
全国	72.9	55.5	78.1	58.2

<中学校>



<他領域との比較から>

【中学校】

- ・ 国語Aの各領域は高い。
- ・ 国語Bの各領域は低い。とりわけ、「書くこと」「読むこと」が低い。
- ・ 数学Bの「数と式」「図形」「資料の活用」が低い。

【平均正答率】

	国語A	国語B	数学A	数学B
函館市	79.8	50.3	66.2	59.1
全国	79.4	51.0	67.4	59.8

<参考>

調査の目的

- ・ 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析して、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ・ 教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- ・ 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

対象学年

- ・ 小学校第6学年，中学校第3学年

調査の内容

- ・ 教科（国語，算数・数学）
- （A問題）：主として「知識」に関する問題
- （B問題）：主として「活用」に関する問題
- ・ 質問紙
- ＊児童生徒に対する調査
- ＊学校に対する調査

生活習慣や学習環境等の状況（函館市の状況）

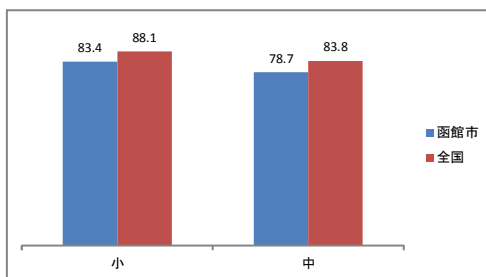
「朝食」「テレビ」「ゲーム」などに関して、全国を下回る

- 全国との比較において、「朝食を毎日食べる」割合が低く、「テレビ等の視聴時間」や「ゲームをする時間が長い」割合が高い。

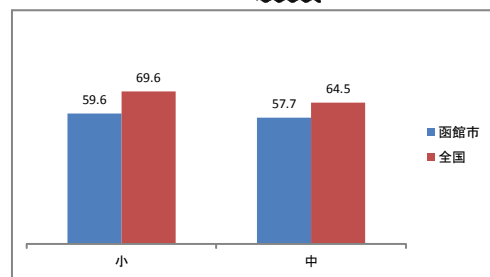
「勉強は好き」だが、家庭学習の時間は短い

- 国語、算数・数学とも、全国との比較において、「勉強は好き」の割合が高いが、「家庭学習の時間」に関する項目では割合が低い。

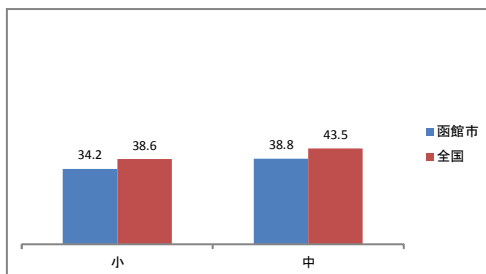
Q 「朝食を毎日食べていますか。」



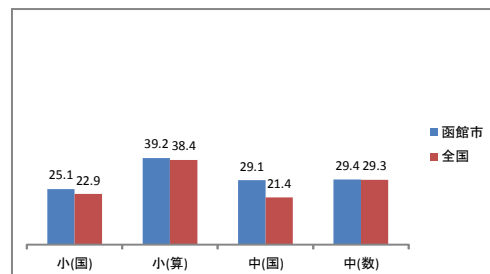
Q 「普段1日当たりのテレビゲームの時間が2時間未満である。」



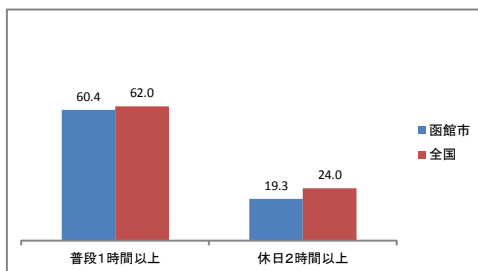
Q 「普段1日のテレビやビデオ・DVDの視聴時間が2時間未満である。」



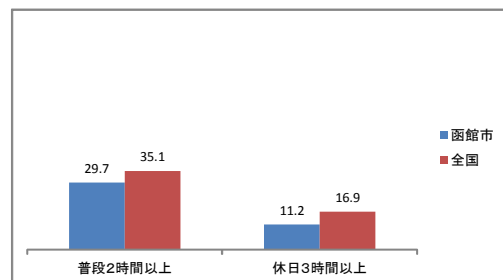
Q 「国語（算数・数学）の勉強は好きですか。」



Q 「普段は1日に1時間以上、休日は2時間以上勉強をしていますか。」
（小学生のみ）



Q 「普段は1日に2時間以上、休日は3時間以上勉強していますか。」
（中学生のみ）



(2) 函館市における国語(A・B)の状況(小学校)

◇得意:(問題形式[短答・選択式])漢字の読み・書きや状況描写を捉えること

■苦手:目的に応じて、話し合いの観点を整理したり、作品を比べて読み、自分の考えを書いたりすること

正答率が高い問題 正答率:59.4~97.4

—— 部の漢字の読みを、ひらがなでいねいに書きましょう。(国語A)
 ・道路の **標識** を見る。 ・**街灯** がつく。 ・**勢** いよく走り出す。

「いきおい」を「いきよい」と誤答しているケースが見られた。

—— 部のひらがなを、漢字でいねいに書きましょう。(国語A)
 ・料理をのせた **さら** を運ぶ。 ・勝利を **いわ** う。 ・かぜを **よぼう** する。

「ネ(しめすへん)」を「ネ(ころもへん)」にして解答しているケースが見られた。

正答率が低い問題 正答率:43.0

詩1) タンポポ

だれでも タンポポをすきです
 どうぶつたちも 大きいです
 でも どうぶつたちは
 タンポポの ことを
 タンポポとは いけません
 めいめい こう よんでいます

イヌ …… ウルフオフォ
 ウシ …… ターモーモ
 ハト …… ポツポン
 カラス …… ターター
 デンデンムシ …… タンタンポ
 タニシ …… タンゴゴ
 カエル …… ポポタ
 ナメタジ …… タヌーベ
 テントウムシ …… タンポンタン
 ヒビ …… タン
 チヨチヨ …… ホポポポ

詩2) たんぽぽさんが よんだ

たんぽぽさんが よんだ
 どんな こえで?
 はなのこえと アブのこえと
 なんのこえでも みんな
 あーら ひょうーら ぷーら しよ
 では かけていきますよ

たんぽぽさんが よんだ
 どうちの ほつで?
 あつからと こつからと
 どつからでも みんな
 あーら ひょうーら ぷーら しよ
 では かけていきますよ

たんぽぽさんが よんだ
 わたしたちと ちようちよたちと
 だれも かれも みんな
 あーら ひょうーら ぷーら しよ
 では かけていきますよ

まどみちおまどみちお 全詩集「による」

【詩1】と【詩2】を比べて読んで、どのようなことを考えましたか。次の条件に合わせて書きましょう。(国語B)

- ・条件1 詩の内容や表現の仕方などについて、共通点やちがう点を取り上げて書くこと。
- ・条件2 「たんぽぽ」と「まど・みちお」の両方の言葉を使って書くこと。
- ・条件3 80字以上、100字以内にまとめて書くこと。

(正答の条件)

- ①共通点や違いを取り上げて自分の考えを書いている
- ②条件2を満たしている
- ③条件3を満たしている

誤答について

	[解答率]
①②を満たし③を満たさない解答	6.0
①を満たし②を満たさない解答(③は不問)	21.7
②を満たし①を満たさない解答(③は不問)	0.7
無解答	26.6



※志の欄は横線は書きませんので、使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答欄に書きましょう。
 ※★の印から書きましょう。どちらの手で字を変えなくて、続けて書きましょう。

(3) 函館市における算数(A・B)の状況(小学校)

◇得意:四則計算や文脈からグラフを選択すること

■苦手:情報を図に表し,筋道を立てて考えること

正答率が高い問題

正答率:83.0 ~ 96.5

次の計算をしましょう。(算数A)

(1) $46 + 57$

(5) $100 - 20 \times 4$

(2) 903×6

(1)(2)は無回答率「0」

(6) $\frac{1}{3} + \frac{2}{5}$

(3) $9 - 0.8$

(4) $2 \div 5$ (わりきれぬまで計算して,商を小数で書きましょう。)



正答率が低い問題

正答率:33.5

かつやさんの学級では,宿泊学習の計画を立てています。

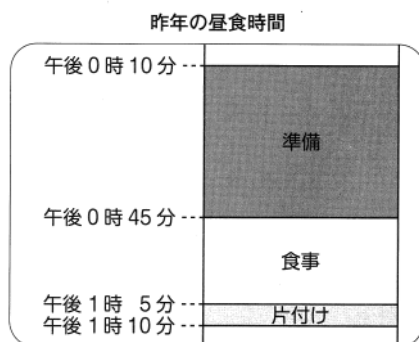
かつやさんたちは,昨年の昼食時間について,下の2つの問題点があったことを先生から聞き,解決方法を話し合うことにしました。

- ① ゆっくり準備したので,食事の時間や片付けの時間が短かった。
- ② ご飯を分け終わったとき,足りなくなったり,残ったりした。

(1) まず,下の昨年の昼食時間の図をもとに,①の問題点について話し合いました。

今年も昼食時間は,午後0時10分から午後1時10分までです。

かつやさんたちは,昨年より食事の時間を5分間長く,片付けの時間を3分間長くすることにしました。今年は準備の時間を何分間にすればよいですか。答えを書きましょう。(算数B)



誤答について	[解答率]
30と解答	9.8
37と解答	9.3
35と解答	4.6
8と解答	2.4
時刻を解答	1.7
上記以外の解答	35.5
無解答	3.2

(4) 函館市における国語(A・B)の状況(中学校)

◇得意:(問題形式[短答・選択式])文脈の中で適切な語句を選択したり、資料の中から必要な情報を読み取ったりすること

■苦手:(問題形式[記述式])漢字を正しく書いたり、伝えたい事実や事柄が明確に伝わるように書いたりすること

正答率が最も高い問題

正答率:96.2

次のアからキの文では、()の中の1から4までのうち、どれが最も適切ですか。それぞれ一つずつ選びなさい。
(国語A)

先のことは分からないが、(1とりあえず 2思いがけず 3覚えず 4知らず知らず)準備だけはしておこう。

正答率が低い問題

正答率:51.4

次の1から3までの文中の線部のカタカナを漢字に直し、楷書でいねい書きなさい。(国語A)

1. 地域の人をショウタイする

誤答について:「招待」のうち	[解答率]
・「招」のみ正答した	11.5
・「待」のみ正答した	11.1
・その他解答	26.1
(無解答 13.6を含む)	

封筒に貼ってある切手を水の中にしばらく浸しておくと、きれいにはがすことができるようになります。

その理由を次の条件1と条件2にしたがって書きなさい。なお、読み返して文章を直したいときは、2本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

(国語B)

- ・条件1 「切手」、「液体」、「アンカー効果」という言葉を全て使って書くこと。
- ・条件2 20字以上、50字以内で書くこと。

(正答の条件)

- ①理由を適切に書いている
- ②条件1を満たしている
- ③条件2を満たしている

誤答について	[解答率]
①②を満たし③を満たさない解答	0
①③を満たし②を満たさない解答	0.8
②③を満たし①を満たさない解答	50.6
無解答	16.5

正答率が最も低い問題

正答率:26.6

いろいろな物をくっつけることができる接着剤。物を組み立てるときや壊れた物を直すときなどに、とても便利なものです。なぜ接着剤は物と物とをくっつけることができるのでしょうか。

物をくっつける仕組みはいろいろありますが、ここでは代表的な仕組みで考えてみましょう。接着する物の表面を顕微鏡で見ると、つるつるしているように見える金属でも、その表面には肉眼では見えない凹凸があることが分かります。そこに接着剤を塗ると、凹凸のすき間に接着剤が入り込みます。そして、すき間に入った接着剤が固まることで物がくっつきます。これをアンカー効果といいます。アンカーとは船の錨のことです。接着剤が物をくっつける仕組みを、海の底に錨を下ろし船を留めておく様子に例えて、そう呼んでいます。つまり、液体の状態での物の表面に広く行き渡った接着剤が、すき間に入つて固体となることで、物と物とをくっつけているのです。

次に、接着剤が液体から固体になる変化について考えてみましょう。

接着剤が液体から固体になる変化には、いくつかの種類があります。例えば、工作用のりや木工用接着剤は、接着剤の中に水分や溶剤を含んでいて、それらが蒸発することで固まります。水分を含んでいない切手の場合も同様で、切手の裏側ののりの部分は、ぬらすことで液体の接着剤になり、やがて固まります。つまり、接着剤に含まれる水分や溶剤が蒸発することで、接着剤が液体から固体になる点で共通しています。(後略)

接着剤が液体から固体になる変化には、いくつかの種類があります。例えば、工作用のりや木工用接着剤は、接着剤の中に水分や溶剤を含んでいて、それらが蒸発することで固まります。水分を含んでいない切手の場合も同様で、切手の裏側ののりの部分は、ぬらすことで液体の接着剤になり、やがて固まります。つまり、接着剤に含まれる水分や溶剤が蒸発することで、接着剤が液体から固体になる点で共通しています。(後略)

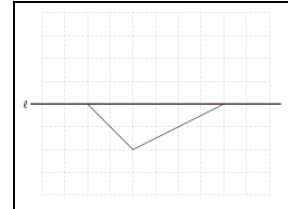
(5) 函館市における数学(A・B)の状況(中学校)

◇得意: (図形) 図形を完成させたり, 空間における位置に関する情報を適切に読み取ったりすること

■苦手: (図形) 実感を伴って理解を深めていたり, 論理的に考察したりすること

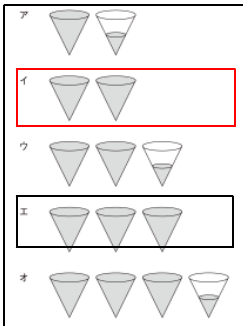
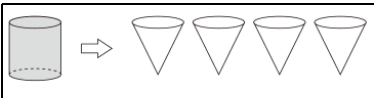
正答率が最も高い問題 正答率: 94.8

右の図は, 線 l を対称の軸とする線対称な図形の一部です。この線対称な図形を, 解答用紙の方眼を利用して完成しなさい。(数学A)



正答率が低い問題 正答率: 28.8

下の図は, 円柱, 円すいの形をした容器です。それぞれの容器の底面は合同な円で, 高さは等しいことがわかっています。この円柱の容器いっぱいに入れた水を円錐の容器に移します。このとき, 下のアからオまでの中に, 円柱の容器に入っていた水と同じ量の水を表している図があります。正しいものを1つ選びなさい。(数学A)



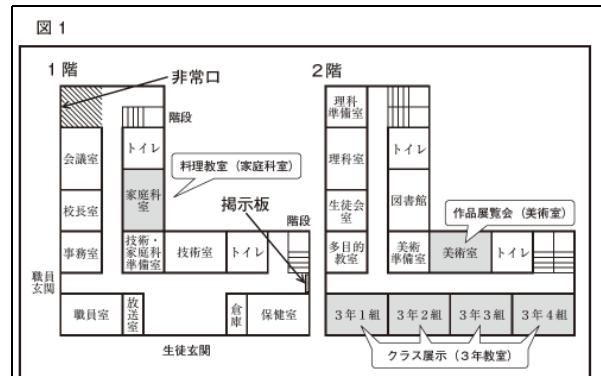
誤答について

誤答	[解答率]
"ア"と解答	15.4
"イ"と解答	40.4
"ウ"と解答	12.7
"エ"(正答)	
"オ"と解答	2.7

第一中学校では文化祭の準備をしています。

正答率が高い問題 正答率: 93.1

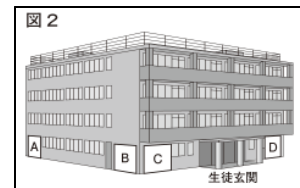
実行委員の健太さんは, 来客用のはり紙やパンフレットを作ったり, 校舎に横断幕を取りつけたりします。図1は校舎の1階と2階の案内図です。



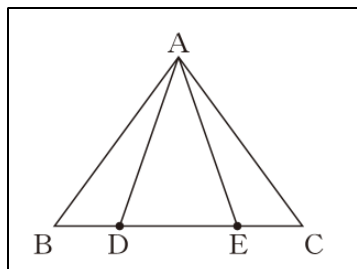
文化祭のパンフレットに, 外から校舎を見た図2を使います。

図1で示した非常口の位置が, 図2のA, B, C, Dの中にあります。下のアからエまでの中から正しいものを1つ選びなさい。(数学B)

ア Aの位置 イ Bの位置
ウ Cの位置 エ Dの位置



下の図のように, $AB=AC$ の二等辺三角形ABCの辺BC上に $BD=CE$ となる点D, 点Eをそれぞれとります。 $\angle BAC=110^\circ$, $BD=AD$ のとき, $\angle DAE$ の大きさを求めなさい。(数学B)



正答(40°)

正答率が最も低い問題

正答率: 19.8

誤答について

誤答	[解答率]
"55°"と解答	10.6
"70°"と解答	7.5
"35°"と解答	3.8
その他の解答	58.2(無解答23.3を含む)

(6) 児童生徒質問紙の結果より

児童生徒質問紙では、学習意欲や学習方法、学習環境、生活に関する質問が計74項目ありました。

その中から、「学習時間等」「基本的生活習慣」「学習に関する関心・意欲・態度」「規範意識」「将来に対する意識」「家庭や地域との関わり」の6点の傾向をまとめました。

学習時間等について

- ◇ 宿題に取り組んでいる子どもの割合は、増加している傾向がみられます。
- ◇ 平日に1日1時間以上家庭学習をする小学校6年生の割合は、増加している傾向が見られます。
- ◇ 平日に1日2時間以上家庭学習をする中学校3年生の割合は全国に比べ低い傾向が見られます



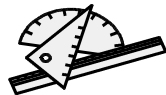
基本的生活習慣について

- ◇ 朝食を毎日食べる子どもの割合は昨年度より減少の傾向が見られます。
- ◇ テレビゲームなどを2時間以上する子どもの割合は、増加している傾向が見られます。
- ◇ テレビなどを2時間以上観る中学校3年生の割合は、減少している傾向が見られます。



学習に関する関心・意欲・態度について

- ◇ 国語や算数・数学の授業がよくわかると感じている子どもの割合は、増加している傾向が見られます。



規範意識について

- ◇ いじめはどんな理由があってもいけない、学校のきまりを守るなどの規範意識は、増加している傾向が見られます。



家庭や地域との関わりについて

- ◇ 家の人と学校での出来事について話している子どもの割合は、増加している傾向がみられます。
- ◇ 地域の行事に参加している子どもの割合は全国、全道に比べ、低い傾向が見られます。
- ◇ 家の人や参観日や学校行事にくる割合は全国、全道に比べ低い傾向が見られます。



将来に対する意識について

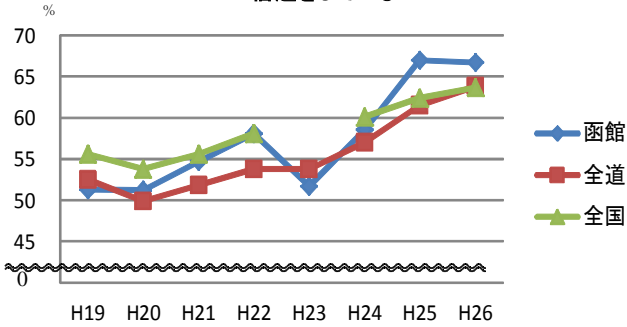
- ◇ 将来の夢や目標をもっている子どもの割合は、わずかですが増加している傾向が見られます。



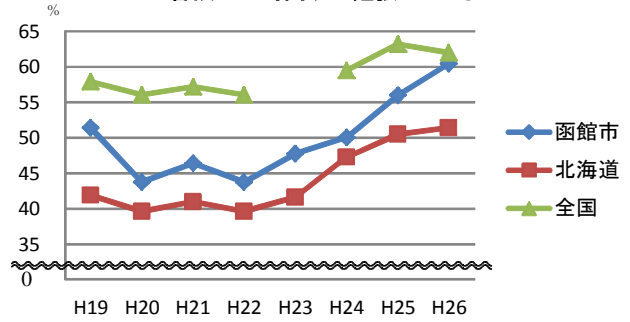


学習時間等について

宿題をしている

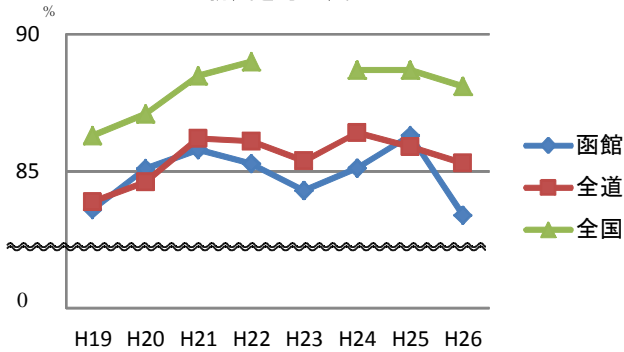


普段1日1時間以上勉強している

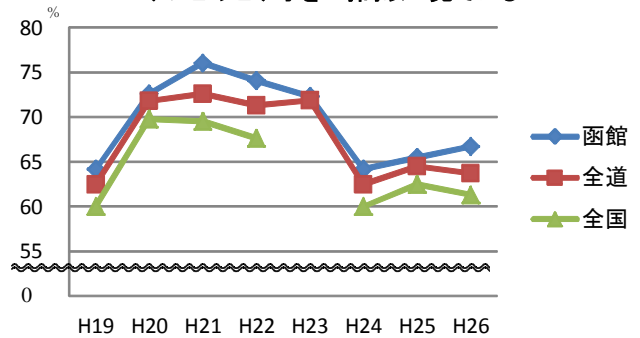


基本的な生活習慣について

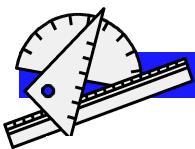
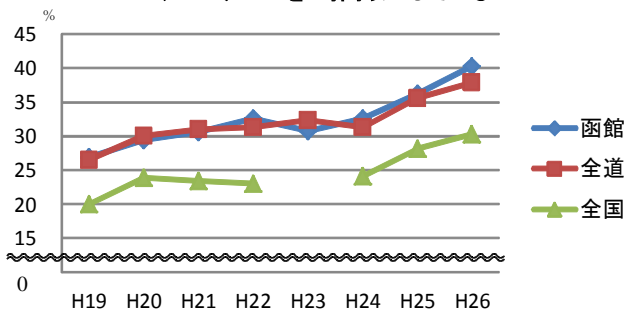
朝食を毎日食べている



テレビやビデオを2時間以上見ている

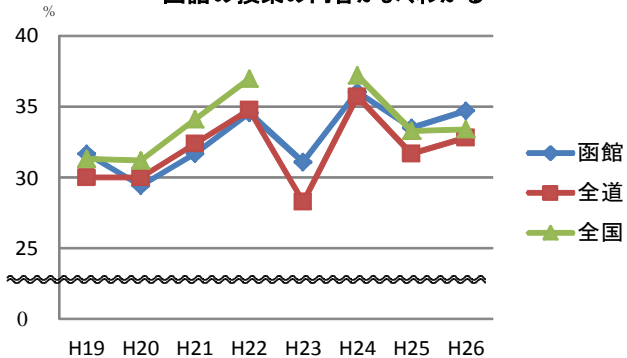


テレビゲームを2時間以上している

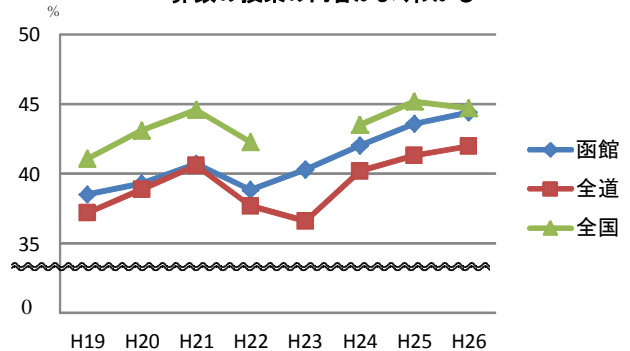


学習に関する関心・意欲・態度について

国語の授業の内容がよくわかる



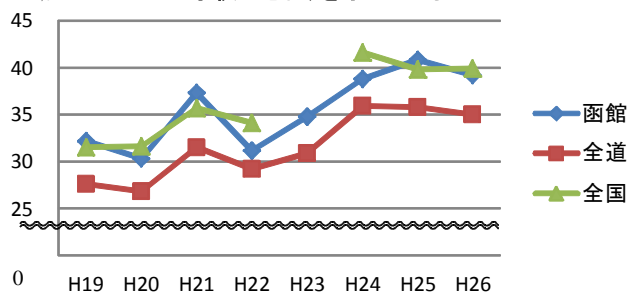
算数の授業の内容がよくわかる



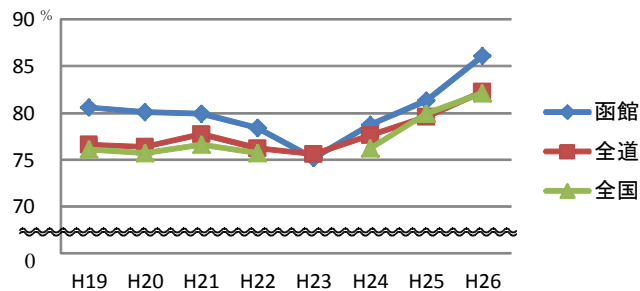


規範意識について

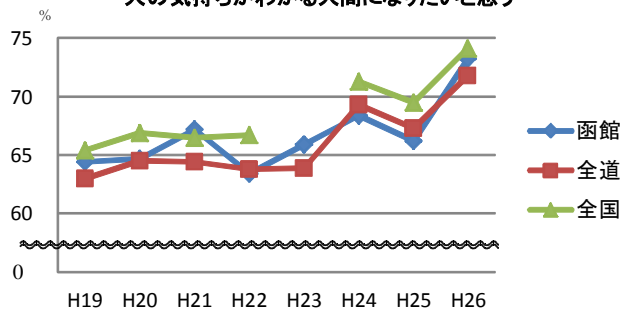
学校のきまりを守っている



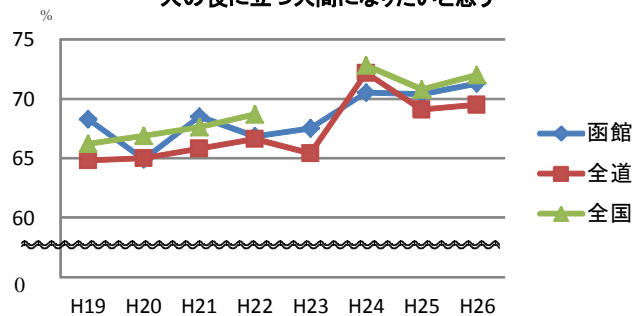
いじめはどんな理由があってもいけないと思う



人の気持ちがわかる人間になりたいと思う



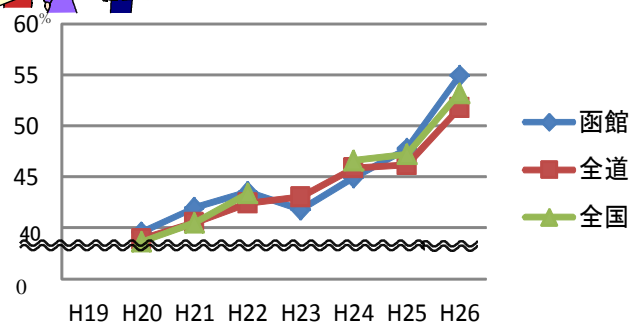
人の役に立つ人間になりたいと思う



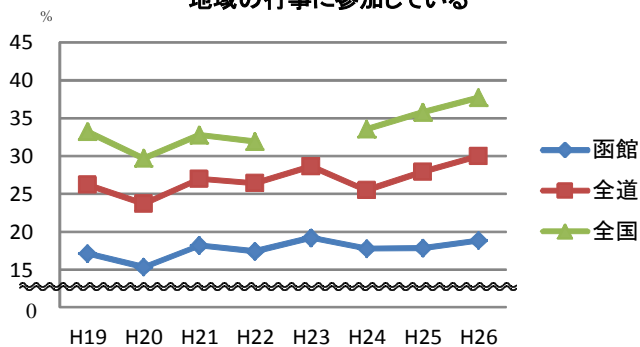
家庭や地域との関わりについて



家の人と学校での出来事を話している



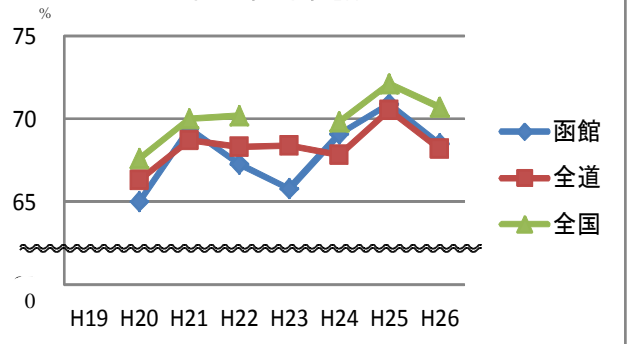
地域の行事に参加している



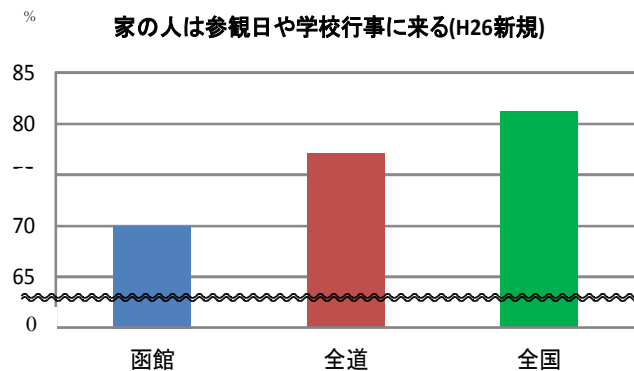
将来に対する意識について



将来の夢や目標を持っている



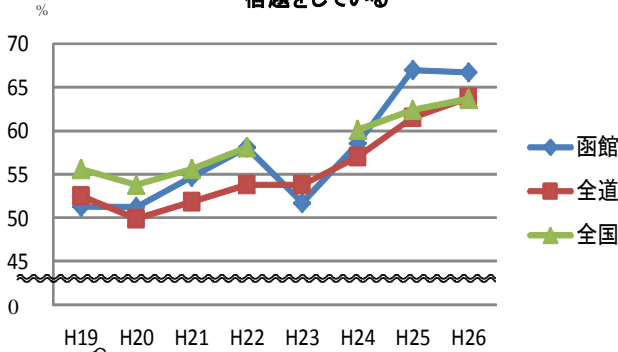
家の人や参観日や学校行事に来る(H26新規)



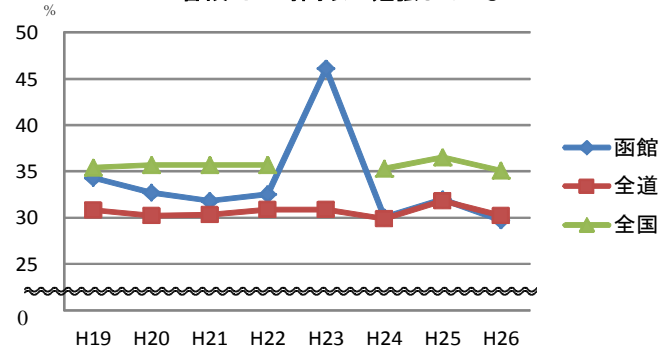


学習時間等について

宿題をしている

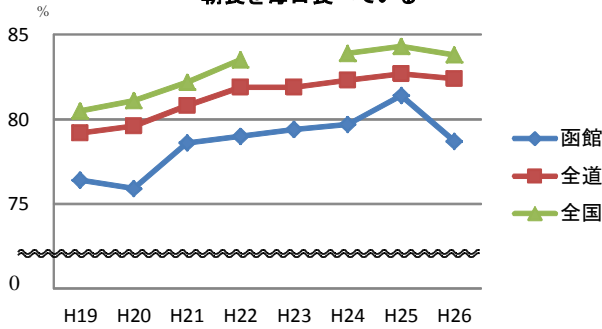


普段1日2時間以上勉強している

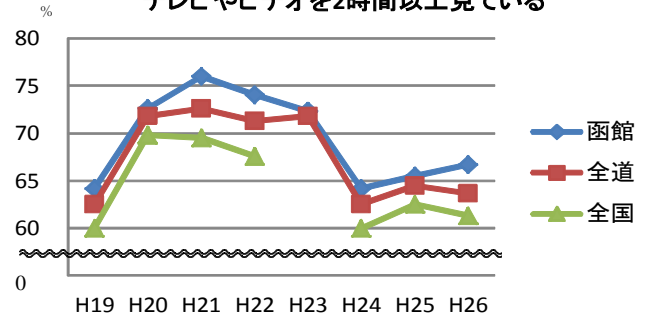


基本的な生活習慣について

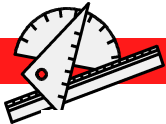
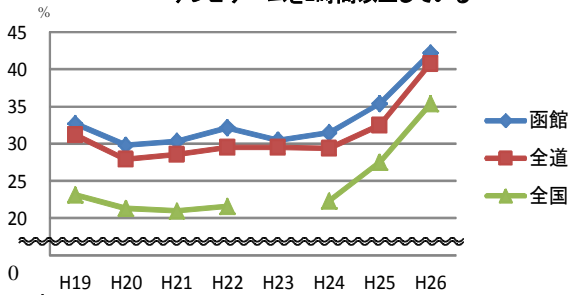
朝食を毎日食べている



テレビやビデオを2時間以上見ている

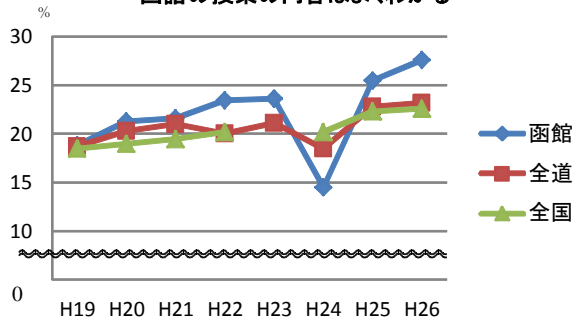


テレビゲームを2時間以上している

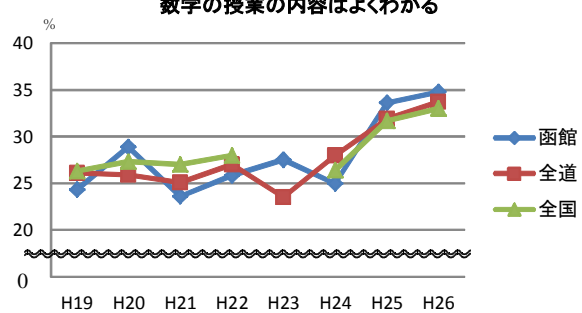


学習に対する関心・意欲・態度について

国語の授業の内容はよくわかる



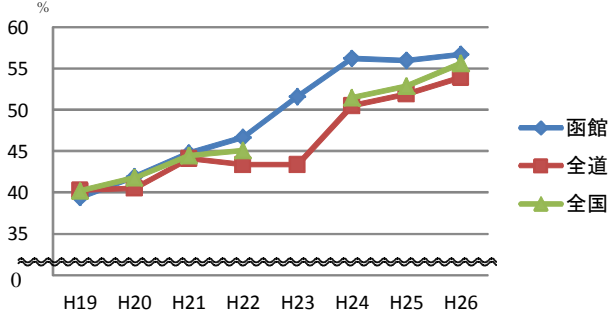
数学の授業の内容はよくわかる



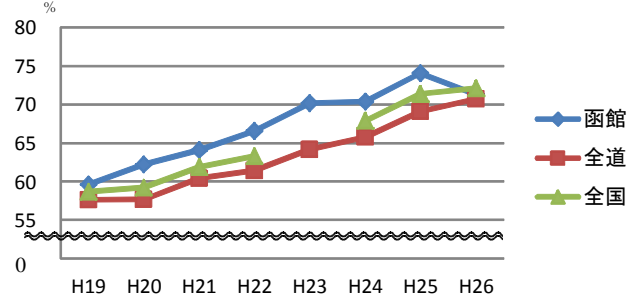


規範意識について

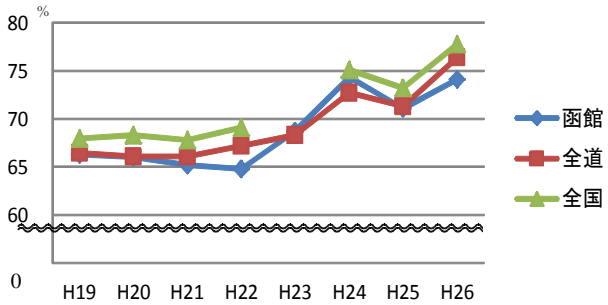
学校の規則を守っている



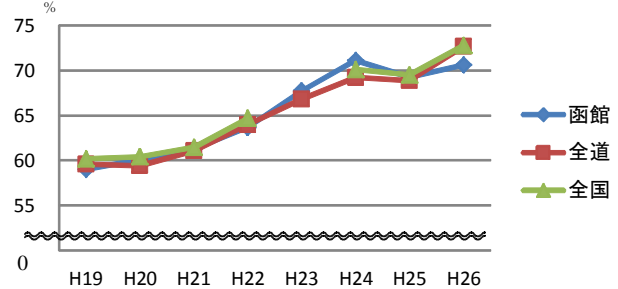
いじめはどんな理由があってもいけないと思う



人の気持ちがわかる人間になりたいと思う

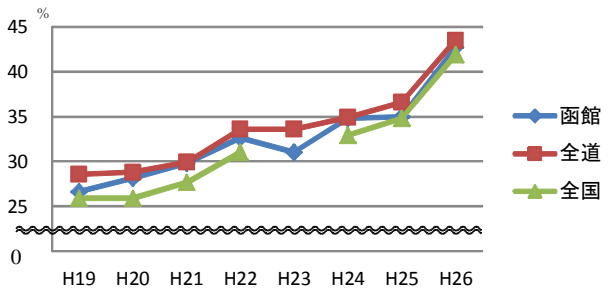


人の役に立つ人間になりたいと思う

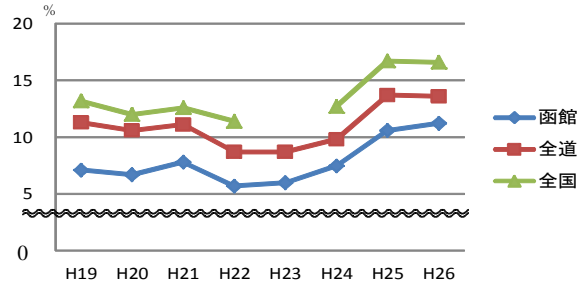


家庭や地域との関わりについて

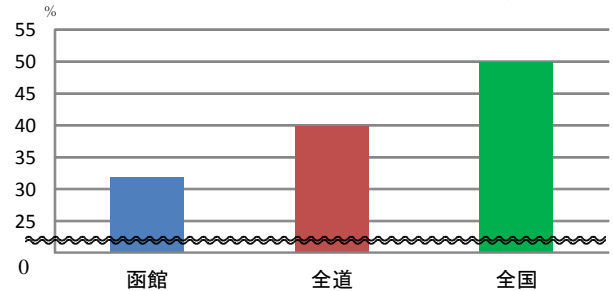
家の人と学校での出来事について話している



今住んでいる地域の行事に参加している

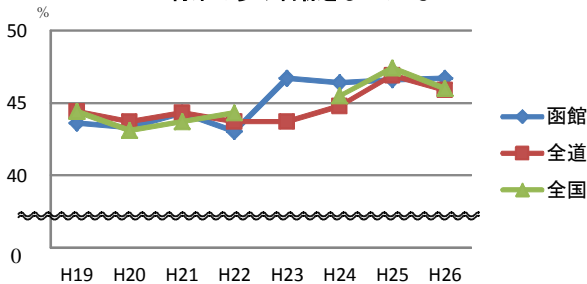


家の人は授業参観や学校行事に来る(H26新規)



将来に対する意識について

将来の夢や目標を持っている



平成26年度 函館市学習状況調査実施報告書【原稿執筆・編集者一覧】
敬称略

【函館市学力向上プロジェクト推進委員会】

推進委員長

函館市北中学校 校長 三觜 徳久 (函館市中学校長会)

副委員長

函館市立中島小学校 教頭 石山 史 (函館市小学校教頭会)

委員

函館市立中部小学校 教諭 保坂 大樹 (「学習規律の徹底」担当)

函館市立戸倉中学校 教諭 田手 淳 (「学習規律の徹底」担当)

函館市立桔梗小学校 教諭 山下 亮 (「主体的な学習習慣の確立」担当)

函館市立の場中学校 教諭 菊池芽久美 (「主体的な学習習慣の確立」担当)

函館市南北海道教育センター教育方法部研究員

函館市立弥生小学校 教諭 笹原 史裕 (「学習規律の徹底」担当)

函館市立赤川中学校 教諭 三河 正志 (「学習規律の徹底」担当)

函館市立北日吉小学校 教諭 村田 義広 (「問題解決的な学習の徹底」担当)

函館市立柏野小学校 教諭 吉田麻夕子 (「問題解決的な学習の徹底」担当)

函館市立亀田中学校 教諭 泉 太貴 (「問題解決的な学習の徹底」担当)

函館市立金堀小学校 教諭 滝口 大輔 (「問題解決的な学習の徹底」担当)

函館市立港小学校 教諭 佐々木 誠 (「問題解決的な学習の徹底」担当)

函館市立亀田中学校 教諭 谷藤 悦子 (「問題解決的な学習の徹底」担当)

函館市立深堀小学校 教諭 小林 郁 (「主体的な学習習慣の確立」担当)

函館市立椴法華中学校 教諭 吉田 友樹 (「主体的な学習習慣の確立」担当)

【表紙作品】

函館市立潮見中学校 教頭 仲井 靖典

平成26年度 函館市学習状況調査実施報告書
～最後までやり切る指導を目指して～

発行者 函館市教育委員会

函館市東雲町4番13号
電話(0138)21-3557

発行 平成27年 3月
